

タイトル	ロシアの諺に見られる数量表現(1)
著者	鈴木, 輝雄
引用	北海学園大学学園論集, 118: 101-167
発行日	2003-12-25

ロシアの諺に見られる数量表現(1)

鈴木輝雄

人類がいつ頃から「物を数える」ようになったのかははっきりしない。しかし、有史以前、人が木の実草の根を集めたり、魚介類を採取したり、野獣を捕獲したときに、物の個数を数える必要が生じたことは想像に難くない。実際、世界の各地で古代の人々が物を数えた痕跡が発見されている。1937年、モラビアのヴェストニツェでは、物を数えた刻印と思われる55個の刻みをつけた狼の骨が発見されているし、他の地域では特殊な刻みを付けた石や粘土板などが発掘されている。「英語の calculation (計算) はラテン語の calculus (小石) が語源である。インドネシア語の数詞で 1 : satu の -tu, ポナペ語の数詞で 1 : eu, 2 : riau などの -u, これらはマレー語の batu (小石) に由来すると言われる」([1], p.11-12) とか「ニューギニアでは monou (左手の小指) が数詞の 1 を意味し, monou reere (次の指) が 2, monou reere kaupu (その次の指中指) が 3... であった」([1], p.14) などの指摘にもあるように、人間が物を数えた証拠は確かに世界各地に存在する。また、琥珀の中に昆虫が閉じ込められそのまま宝石として固形化したように、小石を数えたり毛皮の枚数を数えた時代の記憶が、現在われわれが使っていることばの中に凝縮され残っている例を見出すことも少なくない。

数えた「もの」には当然ながらそれに対応する「ことば」が割り当てられた。これが次第に定着し、それぞれの地域で独自の数詞 unus, duo, trēs, …; ein, zwei, drei, …; one, two, three, …; один, два, три, …; いち, に, さん, …などが形成されて行ったものと推測できる。「1から10くらい数えたのは、人類がまだ文字などを持たなかった時代のことと考えられる。あるいは、捕まった獲物の個数を木片などに付けた刻み線等で記録するくらいはできたかもしれない。この時代を想像すると、数の概念は当然なく、また数字などももちろんあるはずもない。しかし、個数を表す言葉(言葉としての数詞)は相当早い時代にすでにあつたように思う。そのことは、1から5あるいは1から10くらいまでの数詞が、その数詞以前の意味が失われていることが多いという現状からもいえよう」([1], p.45) という見解はおそらく的を射ているであろう。同様の考察が[2]の中でも、次のように行われている。「人間がものを数えるようになったとき、片手、両手、あるいは両手両足の指を使っていたことはほぼ間違いない。手足以外の関節が加わることもあるが、こうした数え方は〈人体計測法〉と呼ばれる。例えばオーストラリアのトレス海峡で発見された遺跡からは右手の小指を1とし、手首、肘、肩を通して最後に右足の

小指で33まで数えている人物が描かれている。このほかニューギニアのパプア族は右手の小指を1とし、肘や肩の関節、さらに目、鼻、口を使って2, 3, 4と数えていき左手小指が22となる。こうした数の数え方では身体部位の名称がそのまま数詞として使われることが多い。使われる名称はしたがって数詞というよりもむしろ指や手の名前そのものと考えるべきである。例えば赤道直下のアマゾン流域に住むジヴァロ族の間では2は〈2本の指〉(jimiar), 5は〈手〉(uwej), 10は〈足〉(nawe)で表すが、それぞれの名称は数詞ではなく、指、手、足の名前なのである。こうした名称は使われているうちに初めの意味を失うため、もともと身体名称だったのがだんだん純然たる数詞になっていく」([2], p.203-204)。数詞が、どのようなプロセスを経て形成されて行くかを見事に解明している指摘と言えよう。さらに[3]では、次のように述べられている。

Впоследствии за определенным количеством предметов или явлений, с которыми люди часто встречались, закрепились особые наименования. Так, в языках некоторых народностей имелись слова для обозначения таких объектов, как «три человека», «три лодки», ..., но не было отвлеченного понятия «три». Таким путем, вероятно, возникали сравнительно короткие числовые ряды, служащие для обозначения отдельно людей, отдельно лодок, отдельно кокосовых орехов, ... На этой стадии отвлеченных чисел еще не было, числа были именованными. ([3], p.874)

赤い花や赤い鳥から「赤」という抽象的な概念が取り出されるにはそれなりの時間が必要であるように、1人の人間や1本の木から「1」という抽象的な数の概念が生まれるには、それなりの経験と歴史が必要であったといえよう。数詞が誕生するためには、人間の脳活動が高度化し相当程度に抽象的な思考が可能な状態に達していなければならなかったわけである。

数量的な把握が数詞を使って行えるようになれば、もはや小石を並べたり木片に刻みをつけたりにして物を数える必要はなくなる。しかし、小量をあつかっているうちはさほどでもないが、大量をあつかうときに「ことば」だけで全体の数量把握をするのは、当然のことながら、適当とはいえない。また、単純に物を数えるだけでなくそれらを足したり、引いたり、掛けたり、というようにさらに高度な作業が要求される場合、例えば「ひやくにじゅうさん」足す「よんじゅうご」のような場合、ことばだけを使っての四則演算は不便きわまりないこともおのずから悟ったであろう。

「おそらく、数を記録した最古のものは紀元前3000年紀前半にシュメール人が作った粘土板でしょう。そのシュメール人の数の体系は、その後バビロニア人に引き継がれています。現存するバビロニアの文書のほとんどが2つの時期のものに集中しています。その1つは、ハムラビ王が統治していた頃のセレウコス時代です。バビロニアの楔形(「cuneiform」, ラテン語で「cuneus」)文字は粘土板に楔の形をした印を刻んだものでした。1と10を表す記号を▼と◀を用いて60進法で数を表していました」([4], p.22)。一方、古代エジプトでは紀元前3000年~2500年頃、数が記号で表現されるようになったといわれる。バビロニア人の数学と天文学の知識はすべてギリ

シア人に伝わったので、ギリシアやローマでも記号としての数字が使われるようになったが、これは紀元前500年以降とされている。いずれにしても、単純に物を数え、それをことばとして表現することから脱却して、人間は数字という便利な記号を歴史上のある時期に発明したのである。この数量を表す記号は現今われわれが使っている算用数字とは大分違い、また地域によってもそれぞれ独自のものが使用されていたが、その表記法は、エジプトに代表される象形文字によるものと、ギリシアに代表されるアルファベットを利用するものとに大別される。ギリシアの表記法は、紀元前3世紀にアッチカ方式に改良され、その後これがヨーロッパ各地に広まったが、スラブへ伝わったのはキリスト教の伝播と時を同じくしている。すなわち、キリスト教が南スラブ、東スラブへと広まるにつれて記数法もスラブ全域に広がって行った。したがって、スラブ民族の数字の表記法はギリシア方式と同様、文字を主体にしたものであるがこのスラブ語で用いられる文字について次のような興味深い記述がある。

「ヨーロッパにおけるギリシア文字の子孫として最後に登場するのはグラゴール文字とキリル文字である。いずれもスラブ語の表記用に考案された文字で(中略)、キリスト教の拡張に伴って誕生したものである。グラゴール文字は9世紀、キュリロスとメトディウスという二人の僧がブルガリアとモラビアにキリスト教を伝えるために聖書を翻訳した際に考案した文字で、40字からなる。キリル文字は伝承ではキュリロスが考案したとされ、名前もキュリロスの名に由来するが、今日ではグラゴール文字が変化したものであることが判明している。前述のようにキュリロスとメトディウスが聖書をスラブ語(古代教会スラブ語と呼ばれる)に訳す際もちいたのがグラゴール文字で、これにクレメンスなる僧が手を加えたのがキリル文字と見られている。キリル文字はもともと43字あり、大半がギリシア文字からの借用だが、ピョートル大帝の治世になって34字に削減された」([2], p.145-149)。

なお、同じスラブ民族でもキリル文字を使う地域とラテン文字を使う地域が分かれた事情について同書は次のようにつづけている。

「コンスタンチヌーポリス(コンスタンチノーブル)会議(867年)に始まる教会成立はミカエル・ケルツリオスの教会追放(1054年)に至って教会分裂の形で決着する。ローマ・カトリック教とギリシア正教の成立である。13世紀になるとギリシア正教系スラブ人はグラゴール文字を廃してキリル文字に切り換えるが、カトリック系のスラブ人はグラゴール文字を維持する。旧ユーゴスラビアのうちカトリックのクロアチアではローマ字が、ギリシア正教のセルビアではキリル文字が使われているのはこのためである」([2], p.149)。

スラブ民族はこのキリル文字を用いて数字も表したのであるが、参考のために対応表を示しておく。ただし、古スラブ語の数字表記はキリル文字そのものを用いたのではなく、文字の上に **ТИТЛО** と呼ばれる波形の記号 **˘** をかぶせて、アルファベットそのものとは区別していた。例えば、**Ѡ** のようにである。文字と数字の対応関係は基本的にはギリシア語における対応に準じているため、ギリシア文字になくキリル文字独自の文字 **Б**、**Ж**、**Ш** などには数字は対応していない。

キリル文字と数字の対応 (10世紀~11世紀)

文 字	名 称	数 字	文 字	名 称	数 字
А	Азь	1	Х	Херь	600
Б	Буки		Ω	Омега	800
В	Веди	2	Ц	Цы	900
Г	Глаголь	3	Υ	Червь	90
Д	Добро	4	Ш	Ша	
Е	Есть	5	Щ	Ща	
Ж	Живете		Ъ	Ер	
З	Зело	6	Ы	Еры	
З	Земля	7	ь	Ерь	
И	И	10	ѣ	Ять	
И	Иже	8	Ю	Ю	
К	Како	20	ѧ	(и)я	
Л	Люди	30	к	(и)е	
М	Мыслете	40	Ѧ	Юс малый	
Н	Наш	50	ѧ	Юс большой	
О	Он	70	Ѩ	Иотов юс малый	
П	Покой	80	ѩ	Иотов юс большой	
Р	Рцы	100	ξ	Кси	60
С	Слово	200	Ψ	Psi	700
Т	Твердо	300	ϕ	Фита	9
У	Ук	400	Ѧ	Ижица	
Ф	Ферт	500			

([5], p.48, p.53)

当時はまだ数の位取り記法は考案されていなかったのもローマ数字による数の記法のように、各位に独自の文字を割り当てるという方式で数量を表しているが、この時代に使われていた呼称 тьма(1万)、легион(1兆)などは現代ロシア語の中でも тьма народу, тьма дел, легион звезд, им имя – легион などの慣用句としてその名残りをとどめている。

現在、物の個数を数えたり、長さや重さを測定したり、時刻や月日を表したり、数字は人間の生活と切っても切れない関係にある。しかし、ことばで表された数量表現がすべてすたれてしまったわけではない。詩歌や文学作品の中では依然としてことばによる数量表現が用いられているし、むしろ1, 2, 3などの記号を使うことの方が少ないとさえいえる。また、英語その他のヨーロッパ言語の単語の中に溶け込んだ数量の概念は、その部分だけ抽出して数字で表してみても意味がない。英語の普通名詞の中に浸透した数の概念をギリシア語、ラテン語など他の言語との関係で興味深く解き明かした [4] などを見ると、数量の概念がいかに多くの人間活動とその表現に関わっているかがよく分かる。これらは数の概念がことばとして伝播し、影響を与え、定着して行っ

た結果であり、ことばとしての数量表現が日常使われる用語と同化していることを意味するといえるであろう。また、諺、金言、いましめ、人生訓などにおいても数量表現はいたるところで用いられているが、大抵は「ことば」として表されていて、代数的な数字が表面に出ていることは少ない。科学がまだ発達していなかった時代には、季節の天候を予測したり、健康上の指針などを経験則として残すときに、数量的な表現は格言や言い伝えとして簡略化された短いことばの中に盛り込まれ、年寄りの知恵や処世訓として人から人へと語り継がれてきた。現在、科学の発達とともに人間の個人的経験則のようなものは軽視され、次第に色あせつつあるものの、何百年何千年という時間の流れの中で培われた人間の知恵は一朝一夕で消えてしまうものではない。この種の知恵は格言、故事、金言、諺、人生訓などとして現今まで数多く残されており、それらをひもとくことによって先人たちがどのように自然や社会を理解しそれと取り組んできたのかを垣間見ることができる。

本稿はロシアのことわざに焦点を絞り、スラブの民衆がどのような形で数量をあつかってきたのかを観察する。すなわち、ロシアにおいて昔から言い古されてきた格言、諺、成句、俚言などの中で数量表現がどのように行われてきたのかをロシアの諺の実例で検討することによってスラブの文化の一端に触れると同時に、ロシア語における数詞の役割や数の数え方が民衆レベルでどのようにとらえられているのかを推察しようとするものである。数詞を調べることはそれを使用している民族の歴史や文化を調べることをも意味する。加藤良作氏は自著 [1] の中で、いろいろな言語の比較数詞論ともいべき見解を展開しつつ、次のように指摘している。「ある数詞についてどの数詞が固有の数詞であり、またどの数詞はどの言語からの借用であるか。さらに、拡大の経過などについて明らかにできれば、その数詞をもつ言語、あるいはその言語を母語とする民族の歴史をも明らかにできることになる。すなわち、数詞の歴史を調べることによって、人類の歴史の一部を知ることができるのである」([1], p.136)。残念ながら [1] ではスラブ語の数詞についてはほとんど触れられていない。本稿では、諺の中に集約された数詞の用例を明らかにし、この種の研究の資料としても利用できるような分類整理された形でそれらを提示することにした。なお、個々の諺の意味や解釈については本稿では触れていない。[6]、[7]に若干の解説があるがすべてではない。

どの地域の言語もそうであるが、文芸作品や諺などにおける数量表現は主として「ことば」すなわち「数詞」を用いて行われる。ロシア語も例外ではない。ところが周知のようにロシア語は名詞、形容詞などが主格を含めて6通りの格変化形を有し、これに男性形、中性形、女性形、複数形などの性や単数・複数の区別などが関わって1つの語が24通りにも変化し、まことに煩雑きわまりない。数詞も例外ではなく、さらに数の位取り(進法)などに用いられている語に変則的な部分があるため、ロシア語による数量表現は難解な分野とされている。次のような興味深い記述を見てもその一端を伺い知ることが出来る。

По-видимому, число 4 когда-то играло особую роль. Специалисты полагают, что в

глубокой древности оно служило своеобразным рубежом, отделяющим числа, у которых уже имелись собственные названия (один, два, три, четыре), от безликого и безымянного множества чисел, скрывавшихся под понятием «много». Вероятно, у наших далеких предков «много» обозначало любое количество больше четырех. Посмотрите, какие окончания у существительных в сочетании с древнейшими числительными: две коровы, три коровы, четыре коровы. Но уже начиная с пяти и далее существительные меняют окончания: пять коров, шесть коров.

Особняком в ряду числительных стоит в «сорок». Оно явно не похоже на слова, обозначающие названия десятков: «двадцать», «тридцать», «пятьдесят». По всей видимости, слова «сорок» дошло до нас как память о бытовавшей в старину системе счисления с основанием 40. Теперь о ней напоминает лишь русское устаревшее числительное «сорок сороков»: сорок сороков церквей, сорок сороков всяких небылиц... ([8], p.15)

もともと、シュメール語の3 : eš や、ラテン語の3 : trēs には「たくさん」という意味があったといわれるので古いロシアで4が大きい数と考えられていたのはさほど不思議なことではないのかもしれない。西欧語の trans (超えて) の語源がこの trēs にあるというのもうなずける話である。

ロシア語の数量表現が複雑であることは、実はロシアのこの分野の専門家自身が認めていることで、[9]の中でГ. Н. Аверьяноваは次のように述べている。

Грамматика и синтаксис слов, которыми называются «количество» в русском языке, достаточно сложны. Объясняется это следующим.

Во-первых, слов — исходных компонентов, которые используются для названия какого-либо количества и «неограниченного множества чисел», в русском языке очень мало, всего 14 (22): *один, — а, — о, два/две, три, четыре, пять, шесть, семь, восемь, девять, десять, (— на-дцать) — десят, сорок, девяносто, сто/— сот, — ста, — сти, тысяча.*

Они могут образовать 999 999 слов, называющих число, а если ввести еще всего одно слово — миллион, то число слов, называющих количество, увеличивается до 999 999 999!

Во-вторых, выразить словами цифры и числа не просто и потому, что современный русский язык использует для этого архаичные, очень старые грамматические формы: *два дома, семеро козлят, сорок дней*, почему так?

В-третьих, в древнерусском языке не было такой категории слов как числительные, их современную функцию выполняли:

- существительные, например, *пять, десять, сто, тысяча и другие*; эти существительные сочетались с другими существительными — управляли их формами: *пять столов, сто домов как много домов, тысяча человек*;

• прилагательные, например, *два/две, три, четыре*, которые согласовывались с существительными: *одна девушка, два дома, две коровы как красна девица, многие люди и др.* ([9], p. 3 – 4)

いずれにしても、このような複雑かつ変則的なロシア語における数量表現も、多くの用例を参照することにより何となくある種の帰納的な一般性を見出し得るのではないかというのが本稿の目論見でもある。民衆レベルでの物の言い方は必ずしも学校で教えられたものとは一致しない。В. И. Даль も次のように指摘している。

Нисходя к просторечию, позволяя себе иногда высказаться поговоркой, мы говорим: «Десять раз примерь, один раз отрежь». Мы не придумали этого изречения, а взяв его в народе, только немного исказили; народ говорит правильнее и краше: «Десятью примерь или прикинь, однав отрежь». В Питере и табличку умножения учат: *два раза три, пять раз шесть*; в школах наших твердят: *дважды три*, а народ говорит: *двою трою или два на пять, три на шесть* и пр. Поучение: нерассудительный, опрометчивый труд часто бывает бесполезен — никогда не выскажется у нас под пером поговоркой: «Крой, да песни пой; станешь шить, наплачешься»; или «Шей да пори, не бедет глухой поры». ([10], p. 7 – 8)

なお、資料としては以下のサイトなどから入手した電子書籍形式の格言・諺集を分析用に変換して用いた。

<http://www24.brinkster.com/newh/poslovitsa> (В. И. Даль Пословицы русского народа)

<http://www.yur.ru/art/poetry/poezla9.htm> (Интрига – поговорки)

<http://govaril.narod.ru/> (Русские пословицы и поговорки)

В. И. Даль, Пословицы русского народа には 31,512 項目, Интрига – поговорки には 1,841 項目, Русские пословицы и поговорки には 1,224 項目のロシアの諺が収録されている。これらを合わせると総計 34,577 項目の諺集となる。中にはいくつか重複しているものもあるがデータベースとしては十分なサイズであろう。ちなみに日本で出版されている格言・諺関係の主なものは [11], [12], [13], [14], [15] などであるが [11] の収録諺数は 1,500 項目, [12] は 3,500 項目, [13] は約 7,000 項目, [14] は 2600 項目, [15] は 365 項目である。

В. И. Даль, Пословицы русского народа, Интрига – поговорки, Русские пословицы и поговорки には格言, 諺, 慣用句, 名言, 警句, 言い習わし, 俚言, 成句, さらに謎かけのようなことば遊びなどが渾然一体となって収録されており, どれが諺でどれが格言, 俚言, 慣用句等々であるか判別し難い。そこで本稿ではこれらを一括して, 便宜上「諺」という用語であつかうことにした。また, В. И. Даль の諺集は, 日本の歳時記のような編成になっていて, 時候, 天文, 地理, 人事, 宗教, 動物など部類別の分類がなされているだけで, 各項目がアルファベット順の辞書形式に並べられているわけでもなく, 詳しい索引が付けられているわけでもない。いわゆる гнездо方式で並べられているだけなので, ある諺がどこに位置づけられ配置されているのかを探し出す

のは大変難しい。結局、特定の諺を抽出するためには自分でデータを再編成して検索しなければならないということなる。当然ながら数詞についても同様のことが言えて、特定の数詞がどこでどのように使われているかを抽出するのはなかなか面倒な検索作業が必要となる。

物を数える場合、最も基本となっているのは基数1, 2, 3, …であろう。数学の分野では自然数と呼ばれるが文法的には個数詞としてあつかわれる。本稿ではまずこの個数詞が上の資料の中でどのように使われているかを検索し用例をすべて抽出した。次に、整数であつかえない部分についてであるが、整数であつかえないものとはすなわち、半端な値である分数や、グループ単位で物を考える集合である。これらは分数詞、集合数詞で取り扱われることになる。また、順序が問題となるときには序数が必要となるが、こちらは序数詞または順序数詞が受け持つ。これらの用例についても順次抽出し検討してみよう。

ある諺が複数の数詞を含んでいるときは、そのいずれについても抽出し当該箇所分類してある。また、使用例のない数詞にはあえてふれていない。以下の抽出リストの中に示されていない数詞は使用例がゼロのものである。抽出したデータは見やすいように文頭の文字に注目して辞書式に並べ、該当する数詞部分はイタリックの太字で示すことにした。配列順序は、男性形、中性形、女性形、複数形とし、格変化については主格、生格、与格、対格、造格、前置格の順としたが中には、当然ながら、特定の変化形の用例が存在しないものもある。このような場合は飛ばして該当するものだけを拾った。なお、電子化した文書の正確を期すため変換ミス等の照合には[10], [16]を参照した。

§1. 個 数 詞

1.1 ОДИН

個数詞の1には次のような種別があり、それぞれ表に示したように変化する。この変化形のすべてについて該当する用例を抽出したものが以下のリストである。表示の仕方は、語尾が同一のものはまとめ、用法による分類は行っていない。個数詞1は物事の始めを表す数字であり、また最も身近な数であるため用例も多く、今回用いた資料中1,017項目が該当し抽出された。ただし、比率では資料全体の2.93%を占めるにすぎない。Одинの旧形единが2項目だけ検出されたが、これは事実上одинと同じなのでここに分類することにした。ただし、このうち1項目はодинという語も含んでいるので重複して表示してある。

	主格	生格	与格	対格	造格	前置格
男性	один	одного	одному	主または生	одним	одном
中性	одно	одного	одному	одно	одним	одном
女性	одна	одной	одной	одну	одной/одною	одной
複数	одни	одних	одним	主または生	одними	одних

(1) **один**

— А велика дыра? — Да **один** ворот остался.

Аминь, да не ходи **один**!

Артель воюет, а **один** горюет.

Артель расходчика кормит. **Один** мира не съест.

Баба да бес — **один** у (в) них вес.

Бабушке — **один** только дедушка не внук.

Благому чудотворцу Николаю два праздника в году, а Касьяну немилостивому **один** в четыре года.

Блин добро не **один**. В блин ломоть завернуть.

Бог дал два уха, а **один** язык.

Бог **один** видел, а люди знают.

Бог **один**, да молеельщики не **один** аковы.

Бог **один**, как ни призывай его.

Бог отстанет, так ни **один** не встанет.

Бредет и зауряд в **один** ряд.

Бур черт, сер черт, все **один** бес.

В гору — то семеро ташат, а с горы и **один** столкнет.

В день казанской весь червец собирается под **один** куст (западн.).

В лес идут, а на троих **один** топор берут.

В **один** день по две радости не живет.

В **один**, Клим, клин колоти.

В семи дворах **один** топор.

В семидесяти двух — **один** козий (песий) дух.

В среду средокрестной недели кресты пекут (запекая в **один** из них деревянный крест и засевая хлеб, на счастье того, кому он достанется).

В сусек не пойдет, а в брюхо пойдет (не за **один** раз, исподволь).

В чистом поле теснота: **один** кашу варит, да и ту пролил.

Вавила красное рыло. Иван болван. Андрей ротозей. Федул губы надул. Пахом — вся рожа в **один** ком.

Велико поле колыбанское, много на нем скота астраханского, **один** пастух, как ягодка (небо, звезды, месяц).

Весь мир подпоясан, **один** староста распоясан (снопы и овин).

Все говорят, что по суду **один** будет виноват.

Все за одного, и **один** за всех. Круговая порука.

Все капралы поскидали кафтаны, **один** капрал не скинул кафтан (сосна).

Все люди, как люди, **один** черт в колпаке.

Все **один** бог, что у нас, что у них (у иноверцев).

Все паны скинули кафтаны (жупаны), **один** пан не скинул кафтан (лиственные деревья и сосна).

Все равны бобры, **один** я соболек.

Всех в **один** кулак сожми, так только то и выжмешь, что съедено.

Всяк за своих стоит (а **один** бог за всех).

Где два, там не **один**.

Где два, там не **один**. Коли два, так не **один**.

Гуляй нечетом: **один** день на разживу покидай.

Два брата родные, и оба Ивановичи, да **один** Дон, а другой Шат (т. е. **один** дельный, другой шатун. Реки Дон и Шат обе текут из Иван—озера).

Два Егорья: **один** холодный, другой голодный (26 ноября, 23 апреля).

Два мужа наружу да **один** в сундуке (от комедии).

Два Николы: **один** с травой, другой с морозом.

Два Николы; **один** травный, другой морозный.

Два таких круга или **один** тусклый — к морозу; красный круг — к ветру, перерванный — к снегу.

Дважды родился, ни разу не крестился, **один** раз умирает (птица).

Два-ста пудаства, четыре-ста копыластва, **один** болтун да два ухтахта (корова: туловище, ноги, вымя, глаза).

Два-ста рогаста, четыре-ста ходаста, **один** махтун и два ухтахта (корова: два рога, четыре ноги, хвост и два уха).

Два-ста рогаста, четыре-ста ходаста, **один** хтырок да два ухтырка (корова).

Две бараньи головы в **один** котел не лезут (что-нибудь да торчит).

Две бараньи головы в **один** котел не лезут.

Две головы, **один** хвост, две руки и шесть ног(то же).

Две ковырки, две подковырки, **один** вертун, два войка, третья маковка (кошка).

Двое — не то, что **один**: подумаем, да и лошадь продадим (насмешка над требованием посоветоваться с другими).

Двое (Семеро) одного обедать не ждут, а смелый и **один** ест.

Двое в поле воюют, а **один** и дома горюет.

Дедновцы — Макары. (Когда Петр I был в Рязанской губернии, то на вопрос его дедновцы, **один** за другим, назвались Макарами, потому что первому государь сказал: хорошо).

Целовальники. Макары до икрынки рыбу вылавливают.

Дело делать и за себя не сможет, а кричит **один** за всех.

День св. Феодосии стоит **один** всех понедельников (несчастный).

Десять раз примерь, **один** раз отрежь.

До расправы двое похваляются, а по расправе — **один**.

Добр дворянин, что ездит не **один** (а с приносом).

Добрый мордвин живет и **один**.

Дураков в **один** бы косяк сбить, да с кнутищем пастуха приставить.

Его **один** ленивый не бьет.

Ежеден не будешь умен. Ден-то много, а ум-эт **один**.

Есть поле сиянское, в нем много скота монастырского, **один** пастух, словно ягодка (небо, звезды, месяц).

Живет **один**, как бирюк, как медведь в берлоге, как бухало, как перст, как божедом (или: божатый, нищий при скудельнице, где кладутся тела погибших).

Живет **один**, как божедом (сторож у скудельницы).

Жизнь дает **один** только бог, а отнимает всякая гадина.

Житье хорошее: семерых в **один** кафтан согнали.

За **один** раз дерева не срубишь.

За **один** раз дерева не срубишь. Не отпыхавшись, дерева не срубишь.

За что про то стоять, чего люди хотят? **Один** другому не указ.

Займует **один**, а отдает всем.

Земля бела, семена черны: пятеро пащут, двое блюдут, **один** управляет (человек пищуций).

Земляк, избил всех в **один** синяк.

И криво, и косо, и на сторону. Фик-фок на **один** бок.

И **один** глаз (Свой глаз), да зорок, не надо и сорок.

И **один** глаз, да зорок, не надобно сорок.

И рать и воеводу в *один* мах перевалял (сон).
Из ничего *один* только бог свет создал.
Из пяти пальцев не вижу ни одного, а *один* в глазах семерит.
Кабы у меня брюхо из семи овчин, все *один* бы съел.
Калмыцкую лошадь *один* только калмык и переупрямит. .
Кобыла с волком тягалась: *один* хвост да грива осталась.
Кобыла с медведем тягалась, да *один* хвост да грива остались.
Когда *один* хлеб вынут раньше прочих и разрежут, то все хлебы испортятся.
Коли *один* говорит, так двое глядят да двое слушают (т. е. два глаза, два уха и *один* рот).
Кто взял, на том *один* грех; кто потерял, на том сто.
Кто смел, тот и бел. Кто смел, тот *один* все съел.
Кто украл — у того *один* грех; у кого украли — у того десять (т. е. от поклепу).
Куда *один* баран, туда и все стадо.
Летели три ворона, кричали в три голоса; *один* кричит: “Я Петр”; другой кричит: “Я Филипп”;
третий кричит: “Я сам велик” (три поста).
Летело сто гусей, навстречу им *один* гусь: “Здравствуйте, говорит, сто гусей!” — “Нет, нас
не сто гусей: кабы было еще столько, да полстолька, да четверть столько, да ты, гусь, так
бы нас было сто гусей”. Сколько их летело? (Тридцать шесть гусей.)
Лжей много, а правда одна. Ложью как хошь верти, а правде путь *один*.
Лучше десять раз поворотить, чем *один* раз на мель стать (морск.).
Лучше *один* раз увидеть, чем сто раз услышать.
Любит поп блин, да и ел бы *один*.
Мастер *один*, а подносчиков десять.
Между двух светил я в середине *один* (нос).
Мир никем не судится, одним богом. Мир судит *один* бог.
Много шахов, а мат *один* (от шахматн. игры).
На весь мир *один* песок сеют.
На гору десятеро тянут, под гору *один* столкнет.
На мир и суда нет. Мир *один* бог судит.
На море, на коробанском, много скота тараканского, *один* пастух королецкий (звезды,
месяц).
На *один* стан в четыре молота.
На Руси два Егорья: *один* холодный, другой голодный (26 ноября и 23 апреля).
На Руси дворянин, кто за многих *один*.

На семи верстах **один** с денежкой Аким.

На старости две радости: **один** сын — вор, другой — пьяница.

На торгу два дурака: **один** дешево дает, другой дорого просит.

Назар все **один** слизал.

Не богат дворянин, да едет не **один**.

Не все ври в **один** раз, покидай в запас на завтра.

Не грози (или: Не кори) барин хлебом, а слуга бегом (т. е. **один** тем, что кормит, другой, что работает).

Не **один** кулак бьет, бьет и козырь.

Не подпрячь ли зайке, **один** не вывезет.

Нет ли вошки, нет ли блошки — **один** червячок, да и тот золотой: бить или на волю пускать? (Игра нянек).

Ни небо, ни земля, видением бела; трое по ней ходят, одного водят; два соглядают, **один** повелевает (бумага, пальцы, перо, глаза, ум).

Ни небо, ни земля, собой бела: двое глядят, трое работают, **один** повелевает (то же).

Новгород (древний) судит **один** бог.

Обыденна честь (т. е. на **один** день), да и ту не умел снести!

Один (Первый) раз не в счет. Разок не в счет.

Один балахон, да и тот из торговой бани унесен.

Один битый двух небитых стоит.

Один блин и то пополам ломай.

Один бог без греха.

Один бог безгрешен. **Един** бог без греха.

Один бог, **один** государь.

Один брат сыт и крепок, другой брат жидок и редок.

Один брат, **один** свет милый. Живут, как брат с сестрой.

Один в бороне, а все в стороне.

Один в воду, другой ко дну — обоим равно.

Один в грехе, а все в ответе.

Один в деле — **один** и в извороте.

Один в Кесово, другой в Разлисово (два села Каш. у., Твер. губ.)

Один в море не рыбац, а без артели не моряк.

Один в Москве, другой в Вологде, а оба голодны.

Один в поле не воин (не ратный).

- Один* в поле не воин.
- Один* в поле не воин. *Один* солдат — не полк.
- Один* в поле не воин. Одной рукой и узла не завяжешь.
- Один* в поле не воин; *один* и у каши загниешь.
- Один* воин тысячи водит (а бог и воеводу и тысячи водит).
- Один* воин тысячи водит, а бог и тысячи и война водит.
- Один* воин тысячу водит.
- Один* волк гоняет овец полк.
- Один* вор всему миру разоренье.
- Один* всего не узнает. Одному всей премудрости не пройти.
- Один* всеми доблестями не овладеет.
- Один* вяжется, другой сватается.
- Один* глаз на печь, другой в Галич.
- Один* глаз на мельницу, другой на кузницу.
- Один* глаз на нас, другой на Арзамас (стар. о мордве).
- Один* глаз на полицу, другой в солоницу (о косом).
- Один* глаз поперек (т. е. пьян); мальчики в глазах.
- Один* говорит — красно, двое говорят — пестро.
- Один* говорит — побежим, другой говорит — полежим, третий говорит — покачаемся (вода, жернов, колесо).
- Один* говорит — пьян, другой говорит — пьян, как третий скажет — пьян, так поди ложись спать!
- Один* говорит пьян, другой говорит пьян — поди ложись спать!
- Один* говорит: “Побежим, побежим”; другой говорит: “Постоим, постоим”, третий говорит: “Пошатаемся, пошатаемся” (вода, берег, трава).
- Один* год десять лет (или: весь век) заел.
- Один* день год на кости накиннул.
- Один* день у меня век заел.
- Один* дурак, а умных пятерых ссорит.
- Один* женился — свет увидал; другой женился — с головою пропал.
- Один* за всех, все за одного.
- Один* и в каше загинет (утонет). Одному и у каши неспоро.
- Один* и дома горюет, а двое и в поле воюют.
- Один* и у каши загинет.

Один и у каши загинешь. Одному и у каши неспоро.

Один Иван — должно; два Иван — можно; три Иван — никак не возможно (сказал немец про Ивана Ивановича Иванова).

Один карась сорвется, другой сорвется, третий, Бог даст, и попадетя.

Один кинул — не докинул; другой кинул — перекинул; третий кинул — не попал.

Один крест хлеба не ест.

Один мосол во щях не варят. С голого мосла не навар.

Один мутит, другой пресноводит (верховодит).

Один на семерых.

Один на стену (на лаву) не пойдешь.

Один не годится, другой хоть брось, третий маленько похуже обоих.

Один одного лучше (*один* одного хуже). Словно на подбор.

Один от Золотой Орды, другой от рыжей бороды (?).

Один под овин, а два под дорогу (о снопах).

Один поет — другой подыгрывает.

Один пошел — полтину нашел; семеро пойдут — много ли найдут?

Один приказчик — *один* вор; два приказчика — два вора.

Один про Фому, другой про Ерему.

Один против всех не сгодишь (не сговоришь).

Один проторил тропу, а все ходят.

Один раз (Однава) перевозиться (домом) — полпожара выстоять; два раза (двою) перевозиться — весь пожар выстоять.

Один раз мать родила, *один* раз и умирать.

Один раз родился, а дважды помер (Лазарь и мертвец, которого клали на крест).

Один раз украл (соврал), а на век вором (лжецом) стал.

Один разумный согрешит, да многих глупых соблазнит.

Один рот — и тот дерет. Одна была у волка песенка, и ту переняли (о позевоте).

Один рот и тот дерет.

Один рубит, семеро в кулаки трубят.

Один рычит да лает, другая мурлычет да фыркает.

Один рядовой, да и тот кривой (о гарниз).

Один с сошкой (с сохою), а семеро с ложкой.

Один с сошкой (т. е. работник), а семеро с ложкой.

Один с сошкой, семеро с ложкой.

Один собирает, другой зеваает.
Один сидит, сам — друг спит.
Один скачет, *один* и плачет, а все *один* (беззаботно).
Один со страху помер, другой ожил.
Один совет, хоть кулаки суй; другой совет, иглы не подбить.
Один сын — не сын, два — не кормильцы.
Один сын — не сын, два сына — не сын, три сына — сын.
Один сын — не сын, два сына — полсына, три сына — сын.
Один только бог видит (или: слышит) нас. Только богу и плакаться.
Один ты в сапогах ходишь.
Один у Мирона сын, да и тот Мироныч.
Один у одного на разуме не бывает (не бывали).
Один ум — полума; три ума — полтора ума; два ума — ум.
Один ура кричит, другой караул.
Один хлеб попу, одна радость — что свадьба, что похороны.
Один хлеба не съешь.
Один язык перемелется (примелется), другой переболтается.
Один, другой — обчелся. Раз, два, три — обчелся.
Один, как бог, как перст, как порох в глазу, как верста в поле, как маков цвет.
Один, как перст, как маков цвет, как красное солнышко, как ясный месяц, как верста в поле и пр.
Одно к одному. Сваливай на *один* загорбок!
Одно ухо, и то глухо. *Один* глаз, да и тот на Арзамас (кос).
Одно чадо, и то чало. *Один* сынище, и тот Фомище.
Одной матери (отца) дети. *Один* отец, *один* и норовец.
Одному и у каши не споро. *Один* у каши сирота.
Одному началу *один* и конец. Одному началу не два конца.
Олончане: олонцы — добры молодцы. Наши молодцы ни бьются, ни дерутся, а кто больше съест, тот и молодец. У нас *один* молодец съел тридцать пирогов с пирогом, да все с творогом.
Он сведет дом в орехову скорлупку. Сведет домок в *один* уголок.
Они одной школы, одной выучки, одной шерсти, масти, *один* черт.
От добра до худа *один* шаток.
От худа до худа *один* шаток.

Плоха мышь, что **один** только лаз (одну лазею) знает.
Под **один** голосок, под **один** волосок, под одно платье.
Подаришь уехал в Париж (а остался **один** купишь).
Подчас и **один** стоит семерых.
Пойду на своих харчах (без виста, **один**) .
Покойник **один** из дому вон (говорят, вынося его и запирая за собою в доме, на время, жильцов. Шадр.).
Поле поливанское, много скота ивановского, **один** пастырь и два яхонта (небо, звезды, бог, луна с солнцем).
Пошло дело на лад: словно **один** держит, другой не пускает.
Про **один** дрожжи не говорят двжды.
Развалился, как верша. Распластался **один** на всю лавку.
Расстиляется по двору белое сукно: конь его топчет, **один** ходит, другой водит, черные птицы на него садятся (письмо).
Рубить семерым, а топор **один**.
Сведем домок в **один** уголок.
Свет не то, что клин (земли) — **один** весь не захватит.
Семеро лежат в куче, а **один** всех растаскает.
Семь бед — **один** ответ.
Семь бед — **один** ответ. Уж заодно отвечать.
Семь крутых утренников: три до Власья, **один** на три после Власья.
Семь листов бумажных, **один** золотой (великий пост и пасха).
Семь раз отмерь, **один** раз отрежь.
Семь раз примерь, **один** раз отрежь!
Семь сел, **один** вол, да и тот гол.
Семьдесят приказчиков, **один** рядовой, да и тот не свой (или: чужой).
Семья воюет, а **один** горюет. Семьею и горох молотят.
Сколько (часов) било? — **Один** бил, два держил (отвечал немец, которого наказали).
Скопили (или: Свели) домок в **один** уголок.
Скрипка да гудок сведет домок в **один** уголок.
Слуга двоих господ. Двома госп **один** ом **один** раб не услужит.
Служба, не видал ли тут теленочка? — А какой он был? — Рыженький, с обрывком на шее. — А **один** бок потертый? — Да, да, он и есть! — Нет, не видал.
Слушают на гумне: дружный стукоток — идти в большую семью; **один** молотит — за

одинокого.

Стоит овца барана. Сера овца, бела овца — все *один* овечий дух.

Сто *один* брат, все в *один* ряд, вместе связаны стоят (частокол).

Стоит море на пяти столбах, двое об нем спорят, *один* говорит: радость моя; другой говорит: пагуба моя (рюмка с вином в руке).

Так ли, сяк ли — уж *один* конец.

То не страх, что вместях; а сунься-ка *один*.

Только и есть за душой. *Один* одним за душой.

Тот и госп *один*, кто все может сделать *один*.

Ты у меня *один* одним, как синь порох в глазу.

У всякого свой вкус: *один* кладет в карман, другой — в картуз.

У всякого свой вкус: *один* любит арбуз, а другой — свиной хрящик.

У кривого *один* глаз, а видит больше (дальше) нас.

У нашего хозяина два кваса: *один* как вода, а другой пожиже.

У невесты женихов сто *один*, а достанется *один*.

У него *один* замок гостит, да и тот на пробое висит.

Федул, что губы надул? — Да кафтан прожег. — Зачинить можно. — Да иглы нет. — А велика дыра? — Да *один* ворот остался.

Фик-фок на *один* бок.

Хозяйка из села Помелова, из деревни Вениковой, пирожок испечет, и корова не ест; да поставит (растворит) три, посадит (в печь) два, а вынет *один*.

Хоть бы уж *один* конец.

Хоть голову с плеч (или: Хоть голову ссечь, снести), да *один* бы конец.

Через восемьдесят могил хватил *один* блин (поп на поминках).

Через семьдесят могил хватил (разорвали) *один* блин.

Черная собака, белая собака, а все *один* пес.

Четверо стелют, двое светят, *один* лежит, никого не пустит (собака).

Четыре стучихи, четыре гремихи, два богомола, *один* вихлец (корова: ноги, рога, хвост).

Четыре ходастых, два бодастых, *один* хлебестун (корова).

Четыре чотырки, две растопырки, *один* вертун да два яхонта (кошка).

Чики, чики, чикалочки, *один* едет на палочке, другой на тележке, щелкает орешки.

Что два, то не *один*. То два, а то полтора.

Шаханья много, да мат *один*.

Шаханья много, да мат *один*. Шахов много, да мат *один*.

Шел *один*, нашел пять рублей; трое пойдут, много ли найдут?

Шесть ног, две головы и *один* хвост (вершник).

Широко поле карагайское, на нем много скота тараканского, *один* пастух, ровно ягодка (звезды, месяц).

Это *один* только задаток, а дело впереди.

Я на всех доспел, а он *один* свертел.

Язык *один*, и в будни и в праздник.

Один бог безгрешен. *Един* бог без греха.

Един бог; два тавля Моисеевых; три патриарха на земле; четыре листа евангельска; пять ран господь претерпел; шесть крыл херувимских; семь чинов ангельских; восемь кругов солнечных; девять в году радостей; десять божьих заповедей; единдесять праотец; два на десять апостолов.

(2) *одного*

Барыш с накладом *одного* гнезда птенцы.

Все за *одного*, и один за всех. Круговая порука.

Все *одного* отца дети. Все Адамовы детки.

Все песни перепели, *одного* шершня не допели.

Все под одним богом ходим, хоть и не в *одного* веруем.

Всех чертей знаю, *одного* дьявола не знаю.

Всех чертей знаю, *одного* сатану (дьявола) не знаю.

Вятски — ребята хватски. Мы, вятчки, ребята хватчки: семеро *одного* не боимся.

Где просто, там ангелов со сто; где хитро (где мудрено), там ни *одного*.

Горе *одного* только рака красит (т. е. кипяток).

Горе *одного* только рака красит.

Дал бы и два, да нет и *одного*.

Два (Двое) одному рать. Много и того, как два на *одного*.

Два хлыста, а ни у *одного* нет конца (хвоста).

Двое (Семеро) *одного* обедать не ждут, а смелый и один ест.

Двое одному рать. Не много, что двое, а много, что на *одного*.

Делай свое дело за семерых, а слушайся *одного* !

Доброе дело одно *одного* лучше, худое — одно *одного* хуже.

Если у *одного* из сидящих за кутьей нет тени, то он скоро умрет.

За ватагу нищих *одного* богача не выменяешь.

За двумя зайцами погонишься, ни *одного* не поймаешь.

За *одного* битого двух небитых дают (прибавка: да и то не берут).

За *одного* битого двух небитых дают, да и то не берут.

За *одного* битого двух небитых дают.

За *одного* ученого двух неученых дают.

За тычком не гонись: разве *одного* мало, так поди за другим.

Из *одного* города идут, а не одни вести несут.

Из *одного* два сделаешь — оба скоротаешь (или: оба бросишь).

Из *одного* дерева икона и лопата.

Из *одного* места, да не одни вести.

Из *одного* меха две завойки выкраивает.

Из *одного* рта и тепло и холодно.

Из одной (Из *одного*) двух не сделаешь.

Из пяти пальцев не вижу ни *одного*, а один в глазах семерит.

Как ни ворочай, а одно *одного* короче. Как ни кинь, вес клин.

Как ни ворочай: одно *одного* короче.

Летело стадо птиц на рощу; если по две на дерево — одно дерево осталось; сели по одной — *одного* не достало. Много ль птиц и деревьев? (Три дерева и четыре птицы.)

Лучше десятерых виновных простить, чем *одного* невинного казнить (Екатерина II).

Малороссы — мазепинцы, хохлы, чубы; индюшка высидела; галушкой подавился. Индейка из *одного* яйца семерых хохлов высидела.

Много и того, как два на *одного*; а мало того, как двое на троих.

На море, на окяне, на острове на буяне стоит бык печеный: в заду чеснок толченый, с *одного* боку-то режь, а с другого макай да ешь.

На *одного* виноватого по сту судей.

На *одного* жида — два грека, на грека — два армянина, на *одного* армянина — два полтавских дворянина.

На *одного* стрелка по десятку загонщиков.

На родильнице не должно быть ни *одного* узла (для чего даже и косу расплетают).

Не бойся никого, кроме (или: только) бога *одного*.

Не всех коли: хоть *одного* на племя пусти (говор. хвастуну).

Ни небо, ни земля, видением бела; трое по ней ходят, *одного* водят; два соглядают, один повелевает (бумага, пальцы, перо, глаза, ум).

Ни у *одного* вора нет каменного дома.

Один за всех, все за *одного*.

Один *одного* лучше (один *одного* хуже). Словно на подбор.

Один у *одного* на разуме не бывает (не бывали).

Одни *одного* (Одно *одного*) стоит.

Одного завода, такова и порода. Клеймо мастера скажет.

Одного мимо, а другого в рыло. Всех мимо, а Мину (или: а меня) в рыло.

Одного не знаю, другого не вижу, третьего не помню (смерть, возраст и рождение).

Одного поля ягода. *Одного* сукна епанча.

Он по яйцам пройдет, ни *одного* не раздавит.

От *одного* берега отстал, а к другому не пристал.

От *одного* порченого яблока целый воз загнивает.

От *одного* слова — да на век ссора.

От *одного* тухлого яйца семеро мужиков бежало.

По две пошрины с *одного* товара не берут.

Пристроила детей: *одного* по миру пустила, другого в науку отдала — свинопасу.

Родня: наши собаки из *одного* корыта лакали.

С ободранного шкуру дерет. С *одного* вола две шкуры дерет.

С *одного* вола две шкуры не дерут.

С *одного* вола двух шкур не дерут.

С *одного* волка двух шкур не дерут. С *одного* вола не две шкуры.

С *одного* конца нет, и с другого нет, а в середке и не бывало.

С *одного* конца хитро, с другого мудреней того; а в середке ум за разум заходит (о машине).

С *одного* мешка не два помола.

С *одного* тягла по две дани не берут.

Садила пять, вынула шесть; *одного* нет как нет.

Село Воронье — днем семидесяти господ (мелкопоместное), а ночью *одного* (кто пойдет на разбой).

Семеро *одного* не ждут.

Семеро *одного* не ждут. Большой меньшого не дожидается.

Семеро *одного* не ждут. Никто от миру не прочь.

Семь планид на небе. Семеро *одного* не ждут.

Сказали: бешеных всех перевешали; неправду сказали: *одного* не связали.

Стоять всем за *одного* и одному за всех.

Спито на *одного*, так на двоих не наденешь.

У него чердак без верху: *одного* стропильца нет.

У *одного* ничего, у другого совсем чисто.

Хлеб в печи раздвоился — к отлучке *одного* из семьян.

(3) одному

Веника не сломишь, а прутья по *одному* все переломаешь.

Где ни жить — *одному* царю служить.

Где ни жить, а *одному* царю служить.

Голдить, так всем голдить; а *одному* голдить, так пропадешь.

Два (Двое) *одному* рать. Много и того, как два на одного.

Двое *одному* рать. Не много, что двое, а много, что на одного.

Его нос бог на семерых нес, да *одному* и приткнул.

И в раю жить тошно *одному*.

Курица по *одному* яйцу носит.

Мил черт *одному* сатане. Черт дьяволу родимый.

Много сватается, да *одному* достанется.

Мотоват, да не женат — *одному* себе внаклад.

Мотоват, да не женат, *одному* себе внаклад.

Не тебе *одному* (Не все тебе) под святыми сидеть.

Нужда (беда, горе) семерых задавила, а радость *одному* досталась.

Один всего не узнает. *Одному* всей премудрости не пройти.

Один и в каше загинет (утонет). *Одному* и у каши неспоро.

Один и у каши загинешь. *Одному* и у каши неспоро.

Одно за другим; одно к *одному*. В стать да в масть.

Одно к *одному*. Сваливай на один загорбок!

Одно к *одному*. Туз к масти.

Одному богу государь ответ держит.

Одному богу молится, а другому кланяется.

Одному вред — всем навет.

Одному глазком мигни, другого дубинкой толкни (или: под бока толкни)!

Одному ехать — и дорога долга.

Одному и пьяно, да не мило; с другом и хмельно, да умно.

Одному и топиться идти скучно.

Одному и у каши не споро. Один у каши сирота.

Одному и у каши неспоро.

Одному мигнул, другому кивнул, а третий и сам догадается (о нерадивой молитве).

Одному мигнул, другому кивнул, а третий сам догадывайся (или: сам догадался)!

Одному милость, а всем обида.

Одному на всех не угодить.

Одному началу один и конец. *Одному* началу не два конца.

Одному не страшно, а двоим веселей.

Одному покориться, другому поступиться (о мировой).

Одному против многих не замышлять.

Одному с женою горе, другому вдвое.

Одному с женою радость, другому горе.

Одному сбылось, другому грезилось.

Одному сбылось, другому не удалось (другому привиделось).

Одному спать — и одеяльце не тепло.

Одному страшно, а всем (миру) не страшно. Вместе не страшно.

Остался меж двух наголе (сел промеж двух стульев; угождая двоим, не угодил ни *одному*).

Перемер *одному* наклад (т. е. хозяину), недомер двоим (т. е. хозяину и покупателю).

Пришло молодцу к *одному* концу.

Пришло чернецу к *одному* концу.

Пропадать, так уж *одному*, а не всем. *Одному* за всех легче.

Сидеть *одному*, когда нет никого в дому.

Сто гостей, сто постелей — *одному* гостю нет постели (матица).

Стоять всем за одного и *одному* за всех.

Торговаться *одному*, а конаться всем (от обычая не перебивать друг у друга цены, а когда приторговано, метать жребий).

У праздника два невольника: *одному* хочется пить, да не на что купить, а другого потчуют, да пить не хочется.

Что всем, то и *одному*. Что *одному*, то и всем.

Чуж *одному* (т. е. одной добродетели), чуж праведному.

Чур *одному*: не давать никому.

(4) одним

Во поле Елифанском, под деревом царским, три орла орлуют, *одним* яйцом даруют (крестины).

Все под **одним** богом ходим, хоть и не в одного веруем.
Господь **одним** хлебом напичал тысячи.
Два брата **одним** пояском опоясаны (два кола).
Двои дети водить — **одним** досадить (т. е. от двух матерей).
Двоим **одним** рукотерником утираться, на том свете разодраться.
До Ильи хоть **одним** зубом подери.
Добрая наседка **одним** глазом зерно видит, другим глазом коршуна.
Его мать моей матери **одним** — одна дочь (он ей сын).
Зимой и летом **одним** цветом (сосна).
Зимой и летом **одним** цветом.
Как поп попадьё бережет (**одним** одна).
Кос, как Соловей — разбойник (который **одним** глазом на Киев, другим на Чернигов глядел).
Лев спит, а **одним** глазом видит (или: глядит; поверье).
Махнула птица крылом и покрыла весь свет **одним** пером (ночь).
Мир крещёный, да мешок холщовый: под **одним** окном выпросит, под другим съест.
Мир никем не судится, **одним** богом. Мир судит один бог.
Молодо — жидко, старо — круто, а середовая пора **одним** днем стоит,
Мужик с **одним** яйцом каравай хлеба съест.
На вкус, на цвет мастера нет (т. е. такого мастера, который бы **одним** на всех угодил).
На поле Арском, на рубеже татарском, два орла орлуют, **одним** языком балуют (крестины).
Не **одним** головой свет стоит (т. е. не **одним** волостным головой. Иначе: Не об одной голове, или: Не одной головой свет стоит).
Не ходи к воеводе (или: в суд) с **одним** носом, ходи с приносом!
Ни на волос не уснул. **Одним** ухом спит, другим слышит.
Нищий, и сытый и голодный, все **одним** голосом поет.
Одним волоком (разом, приемом) века не проживешь.
Одним глазом спи, а другим стереги!
Одним гусем поля не вытопчешь.
Одним камнем двух собак разогнал.
Одним камнем много горшков перебьешь.
Одним конем всего поля не изъездишь.
Одним махом сто душ побивахом.
Одним махом сто побивахом, а прочих не клахом (не считахом).
Одним рылом и глядит (т. е. обжора).

Одним шлепком. Пару на заряд.
Одно око, да видит далеко. Кривой видит и *одним* глазом.
Он *одним* только ухом слушает.
Она прибирает, она подавает, *одним* одна за всех отвечает.
Они везде (Они все) *одним* миром мазаны.
Ох—охонюшки, хорошо жить Афонюшке; *одним* Фонюшка нехорош: промысел его негож.
Под *одним* колпаком семьсот казаков (маковка).
Под *одним* окном выпросит, под другим съест.
Под *одним* окном постучит, под другим выпросит, под третьим отдохнет — поддевочка—то сера, да волюшка своя.
Покойник глядит *одним* глазом — высматривает другого.
Посадские животы толсты, да коротки; а дворянские тонки, да долги (купец держится *одним* богатством; раз оборвался — и пропал, дворянин же все тянется, хоть и на чужом).
Сам спит, сам видит. *Одним* глазом спит, другим видит.
Сватались к девушке тридцать с *одним*, а быть ей за *одним*.
Семеро капралов над *одним* рядовым.
Только и есть за душой. Один *одним* за душой.
Ты у меня один *одним*, как синь порох в глазу.
Тысяча братьев *одним* поясом подпоясаны, на мать поставлены (сноп на земле).
Утки летели, гуси летели, коровы летели, козы летели (игра, где вслед за *одним* все поднимают руки, коли что летное летит, а за ошибку дают окуп).
Хотя поздно, да навозно. *Одним* днем лето не опоздано.
Человек сыт *одним* хлебом, да не *одним* ремеслом.
Четыре братца под *одним* шатром стоят (стол).
Я его и пальцем не тронул. Хоть бы я его *одним* пальцем тронул.

(5) **ОДНОМ**

Барыш с накладом в *одном* кармане живут.
Ближняя родня: на *одном* солнышке онучи сушили.
В день казанской камаха (червец) лежит в *одном* месте клубком (замосков).
В *одном* калинничке два тестечка (яйцо).
В *одном* кармане (или: зепи) пусто, в другом капуста.
В *одном* кармане вошь на аркане, в другом блоха на цепи.
В *одном* кармане Иван тощий (или: постный), в другом Марья леготишна.

В *одном* кармане пусто, в другом нет ничего.
В *одном* кармане смеркается, а в другом заря занимается.
В *одном* кармане сочельник, в другом чистый понедельник.
В *одном* кулаке сожму, так плевка мокрого не останется.
В *одном* перье веку не изживешь.
Все кишки в *одном* горшке, одна кишка поперек горшка (матица).
Два кота в *одном* мешке не улежатся.
Едят хлеб не в *одном* вашем дворе.
Есть и двести, да не в *одном* месте.
И зиму и лето на *одном* полозу ездит (волоковое окно).
Круглого копыта (животных об *одном* копыте) не едят.
Матушкой весной в цветном платье, мачехой зимой в *одном* саване (черемуха).
Молодая раздевает и разувает молодого (в *одном* сапоге плетка, а в другом деньги).
На *одном* вече, да не одни речи.
На *одном* гвозде всего не повесишь.
На *одном* дню семь пятниц .
На *одном* конце червяк, на другом? дурак.
На *одном* месте и камень мохом обрастает.
На *одном* месте лежа, и камень мохом обрастает.
На *одном* солнышке (жердочке) онучи сушили (по дружбе, родству).
На *одном* часу и снег и дождь. На одной неделе семь пятниц.
Не об *одном* хлебе сыты бываем.
Об *одном* вздохнешь, а всех жалко.
Оба два, да ни в *одном* добра.
Прибыль с убылью в *одном* дворе живут.
Прибыток с убытком на *одном* полозу ездят.
Сокол на *одном* месте не сидит, а где птицу видит, туда и летит.
Сто молодцов на *одном* головище (изголовье) спят (накат на матице).
Топчется на *одном* месте, как тетерев на току.
Хоть сзади, да в *одном* стаде (да в том же стаде).
Что в пир, что в мир (т. е. по миру), всё в *одном*.

(6) **одно**

Без вина — *одно* горе; с вином — старое *одно*, да новых два: и пьян и бит (и пьян, и голова

болит).

Будто не все *одно*, что украл, что так унес.

Было времечко — осталось *одно* беремечко.

Было время — осталось *одно* безвременье.

В *одно* перо и птица не родится.

В *одно* ухо влезет, в другое вылезет.

В *одно* ухо впустил, в другое выпустил.

В *одно* ухо слушает, в другое выпускает.

В *одно* ушко впущу, в другое выпущу.

Водка — вино тетка. Хоть водка, хоть вино, а все *одно*.

Врешь хорошо, да не в *одно* слово (т. е. путаешься).

Все *одно*, что в лоб, что в голову.

Все *одно*, что дерево, что бревно.

Грешно дать умереть младенцу в люльке: все *одно*, что на виселице.

Дай ему хоть торбу с пирогами, хоть черта с рогами — все *одно*.

Дай поле: *одно* ржаное, другое яровое (пирог и хлеб, свадеб.).

Два лета по зиме, *одно* само по себе.

День корпит, ночь корпит, под затопом (или: *одно* утро) спит (заслон).

Доброе дело *одно* одного лучше, худое — *одно* одного хуже.

Ешьте, дорогие гости: все *одно* будет (т. е. надо) собакам выкинуть.

Журавли за море летают, а всё *одно* курлы.

Завтраки не сытны. Завтра — все *одно*, что вчера.

Заладила сорока Якова *одно* про всякого.

Затвердила сорока Якова *одно* про всякого.

Знай *одно* ремесло да блуди, чтоб хмелем не поросло!

Знай свое наладил: знай *одно* да *одно*.

И надо всеми не покрыто (т. е. *одно* небо).

И новая песня стареется. *Одно* золото не стареется.

И по летам, и по годам — *одно* место: печь.

Из многих малых выходит *одно* большое.

Как в трубу, все в *одно* место. Как из трубы валит.

Как ни ворочай, а *одно* одного короче. Как ни кинь, вес клин.

Как ни ворочай: *одно* одного короче.

Как родня? Да на *одно* солнышко глядим.

Который палец ни укуси — все *одно*: все больно (дети).
Кто отцу отцом был? (Иосиф, крестивший отца.) Четыре орла *одно* яйцо снесли (четверо евангелистов).
Куда торопишься? Все *одно* тебе здесь нечего делать — посиди!
Летело стадо птиц на рощу; если по две на дерево — *одно* дерево осталось; сели по одной — одного не достало. Много ль птиц и деревьев? (Три дерева и четыре птицы.)
Мало пьется: *одно* доньшко остается.
Марина не малина: в *одно* лето не опадет.
На *одно* солнце глядим, да не *одно* едим.
На *одно* солнышко глядим, да не *одно* едим.
Не малина — не опадет. Марина не малина, в *одно* лето не опадет.
Не *одно* пузище смьшляет о пище; и тонкий живот без еды не живет.
Не сорока, перо в перо не уродится. Не все сорочьи дети — в *одно* перо не уродятся.
Немка, голанка — брюквы не лучше (*одно* и то же).
Ныне толокно, завтра толокно, да как всякий день *одно*, так прискучит оно.
Огонь да бересту не клади в *одно* место.
Одна работа (*Одно* ремесло) не кормит.
Одни одного (*Одно* одного) стоит.
Одно дело делай, а другого не порть.
Одно дело делай, а от другого не бегай!
Одно дело делай, другого не порть!
Одно дитя роженое (дочь), другое суженое (зять).
Одно за другим; *одно* к одному. В статью да в масть.
Одно знай: господи, помилуй и отыми и подай!
Одно к одному. Сваливай на один загорбок!
Одно к одному. Туз к масти.
Одно купи, другое продай! *Одно* продай, другое купи!
Одно нынче лучше двух завтра.
Одно око, да видит далеко. Кривой видит и одним глазом.
Одно проклятое дерево без ветра шумит (осина).
Одно сердце страдает, другое не знает.
Одно слово — аминь, а святые дела вершит.
Одно спасенье — пост да молитва.
Одно трости: господи, прости!

Одно ухо, и то глухо. Один глаз, да и тот на Арзамас (кос).
Одно чадо, да и то чало. От сына дурака не хлеба колоба.
Одно чадо, и то чало. Один сынище, и тот Фомище.
Они в одну руку играют. *Одно* за *одно*.
Оно все равно (все *одно*), да толковать долго.
От вора остатки бывают, а от огня — *одно* пепелище.
По саже хоть гладь, хоть бей — все *одно* (все черно).
По саже хоть гладь, хоть бей — все *одно*.
Под один голосок, под один волосок, под *одно* платьице.
Покойника, который ел картофель, выносят из дому не в ворота, а разобрав *одно* прясло изгороди (калужск.).
Полно тебе докучную сказку сказывать (*одно* и то же, без конца).
Попу, что сноп, что стог — все *одно* (все мило).
Равные обычаи — крепкая любовь. Одна думка, *одно* и сердце.
Сбылось *одно*, сбудется и другое.
Светится *одно* солнце на небе, а царь русский на земле.
Сивер да полуночник потянет, шубу с кафтаном в *одно* место стянет.
Сорока от сороки в *одно* перо родится.
Стоит дерман, ни шит, ни бран, в *одно* бердо ткан (береза).
Твердит, что сорока Якова, *одно* про всякого.
У двух матерей по пяти сыновей (пальцы). У двух матерей по пяти сыновей, все в *одно* имя (то же).
У худой птицы худые и песни. У ворона *одно* кра.
Угля сажей не замараешь. По саже хоть гладь, хоть бей — все *одно*.
Умный *одно* слово вымолвит, и то скажется.
Фока как сорока Якова — затвердил *одно* про всякого.
Хол *одно* (Худо тому), на ком платье *одно*; а и двое, да худое, не лучше (не теплее) того.
Хол *одно*, на ком платьице *одно*; а и вдвое, да худое, все *одно*.
Хол *одно*, на ком платье *одно*, а и двое, да худое — не лучше того.
Хол *одно*, на ком платье *одно*; а и двое, да худое — все *одно* (не лучше того).
Хоть проси, хоть не проси. Проси не проси, все *одно*.
Четыре Василисы в *одно* место свилися (светец).
Что девять сороков, что четыре девяносто — все *одно*.
Что кургузому, что бесхвостому — все *одно*.

Что самому воровать, что вору стремянки держать — все *одно*.

Что свистнуло, что гаркнуло — все *одно*.

Что совой о пень, что пнем о сову, а все сове больно (а все *одно*).

Что черно, что бело, вызолоти — все *одно*.

(7) *одна*

Беглому *одна* дорога, а погонщикам сто.

Беда (никогда) не приходит *одна*.

Беда не живет *одна*. Беда на беду.

Беда не ходит *одна*.

Беда не ходит *одна*. Беда с победушками.

Беда никогда не приходит *одна*.

Бык да теля (кобыла, жеребя) — *одна* ровня.

В нежилом доме нечисто. В нежилом доме *одна* не жить.

Войско сухопутное — *одна* рука; а сухопутное и морское — две (Петр I).

Вот тебе на: не ходи *одна*, ходи с матушкой!

Все детки одной матки. Пять перстов, а все *одна* рука.

Все кишки в одном горшке, *одна* кишка поперек горшка (матица).

Все минется, *одна* правда останется.

Где *одна* вода лед положит, там другая снесет.

Горя много, а смерть *одна*.

Далась дураку *одна* песня на веку.

Две головни и в поле дымятся (курятся), а *одна* и в печи гаснет.

Две ноги подходят, две руки подносят, *одна* голова кланяется.

Денежный грех на богатого, а у бедного все *одна* шкура в ответе.

Его мать моей матери одним — *одна* дочь (он ей сын).

Жена да муж — змея да уж (т. е. *одна* порода, заодно).

Жила — была старица *одна* в сельце, поставила старица зарод сенца; шло буде не ладно —
опять с конца (докучливая сказка).

За чужую душу *одна* сваха божится (да цыган).

Замесила пресно, да посадила тесно (и вышла *одна* лепешка).

Знает грудь *одна* да подоплека (рубашечная подкладка).

И в мир, и в пир — одежда *одна*.

И *одна* корова, да жрать здорова.

И пир, и в мир, и в лес по дрова — все одежка *одна*.

И похваля едят, и похуля едят (все *одна* сыть).

Как поп попадьё берет (одним *одна*).

Кто там? — Мы. — А кто вы? — Калмыки. — А много ли вас? ? Я *одна*.

Купить на сто рублей сто скотин, платить — и по десяти рублей за одну, и по пяти рублей, и по пятидесяти копеек; по сколько скотин придется на каждую цену? (По пятидесяти копеек девяносто скотин, по пяти рублей девять скотин, по десяти рублей *одна* скотина).

Кус деньга, кус гривна. Мера *одна*, да доброта не та.

Ласковое теля двух маток сосет (а бодливому ни *одна* не дастся).

Ласковое теля двух маток сосет, а бодливому ни *одна* не дается.

Летели три пичужки через три избушки; *одна* говорит: “Мне летом хорошо!” Другая говорит: “Мне зимой хорошо!” А третья говорит: “Мне что зимой, что летом — все равно!” (Телега, сани, дуга).

Лжей много, а правда *одна*. Ложью как хошь верти, а правде путь один.

Лиса и во сне кур считает. *Одна* дума — и та нейдет с ума.

Лихи зарецкие собаки, а наша *одна* от семерых

Лихо до дна, а там дорога *одна*.

Мошнику (тетереву) вся зима *одна* ночь (за одну ночь).

Муж да жена — *одна* душа. Муж да жена — *одна* сатана.

Муж да жена — *одна* сатана.

Мы пашем, так спрягаемся: на всю деревню *одна* лошадь (запрягаем артелью).

На злой жене *одна* только печь не побывает.

На Сидора попа не *одна* беда пришла.

На тот свет отовсюду *одна* дорога.

На убогом дери одежу, у богатого рожу (*одна* обидя).

Не ходи *одна*, ходи с матушкою!

Недалеко до молочка: всего *одна* ночка (с послед. дня поста).

Никто беды не перебудет: *одна* сбудет — десять будет.

Овечка да ярочка — *одна* парочка. Покровское ягня — тот же баран.

Один рот — и тот дерет. *Одна* была у волка песенка, и ту переняли (о позевоте).

Один хлеб попу, *одна* радость — что свадьба, что похороны.

Одна (или: Дорога) голова на плечах.

Одна баба заерестилась — не все дело переверотилось.

Одна беда не беда.

Одна беда не надокучит, а надокучит, так проучит.
Одна беда не угасла, другая загорелась.
Одна была у волка песенка — и ту переняли (т. е. зевать).
Одна в одну пригожеством и дородством.
Одна врала, другая не разобрала, третья по—своему переврала.
Одна голова и гудет и пляшет.
Одна голова и смеется и плачет — все *одна*.
Одна голова на плечах, и та на ниточке (или: на волоске).
Одна голова не бедна (прибавка: а и бедна, да *одна*).
Одна голова не бедна, а бедна, так *одна*.
Одна голова не бедна, а и бедна, да *одна*.
Одна головня и в печи гаснет, а две и в поле курятся.
Одна головня и в поле гаснет, а ворошок курится.
Одна головня и в поле гаснет, а две дымятся (курятся).
Одна головня ни горит, ни гаснет.
Одна дверь на замок, другая настезь.
Одна денежка, и та свищет.
Одна до дна, а две вполовину.
Одна душа, и та нехороша. Со всем прибором сатана.
Одна жена плачет от жалости, другая от лести.
Одна забота: не стала б работа.
Одна игра не потеха. *Одна* игра не выигрыш.
Одна копейка — и та ребром.
Одна корка, да и той подавился.
Одна кудря стоит рубля, другая тысячи.
Одна ласточка не делает весны.
Одна майская роса лучше овса.
Одна муха не проест и брюха.
Одна нога в лапте, другая в сапоге. *Одна* нога обута, другая разута; а кабы третья была — не знаю, как бы пошла.
Одна нога в сапоге, другая в постоле.
Одна нога тут, другая там (говорится о быстроте поездки).
Одна остуда — виски отстукать.
Одна паршивая овца все стадо портит.

Одна пора в гору сено косить. *Одна* пора: страда.

Одна пора: страда (время покоса и уборки хлеба).

Одна правда (т. е. не две) на свете живет.

Одна птица кричит: “Мне зимой тяжело!” Другая кричит: “Мне летом тяжело!” Третья кричит: “Мне всегда тяжело!” (Сани, телега, лошадь.)

Одна пчела немного меду натаскает.

Одна работа (Одно ремесло) не кормит.

Одна речь не пословица.

Одна рука в меду, другая в патоке.

Одна рука в меду, другая в сахаре (или: в патоке).

Одна рюмка на здоровье, другая на веселье, третья на вздор.

Одна с хлеба долой (о замужней дочери).

Одна сваха чужу сторону нахваливает (а сама дома сидит).

Одна своробливая (или: шелудивая, паршивая) овца все стадо испортит.

Одна слеза катилась, а другая воротилась.

Одна слеза катилась, другая воротилась.

Одна смерть правдива (не разбирает богатого).

Одна только сваха за чужую душу божится.

Одна труба, четыре избы, восемь улица (разоренное имение).

Одна у попа попадья, да и та последняя (останняя).

Одна ягода в сорок два года.

Она прибирает, она подавает, одним *одна* за всех отвечает.

От злой жены не уйдешь. От злой жены *одна* смерть спасает да пострижение.

Отцов много, а мать *одна* (т. е. отца легче заменить).

Ох, мой бог; в рот не лезет, а в брюхо *одна* дорога.

Пестра сорока, белобока, а все *одна* в одну.

По шерсти разберем. Шерсть *одна*, так мысль не та.

Поезжай, хоть куда: везде доля худа (*одна*).

Политика — тухлое яйцо (неосторожно разобьешь, так *одна* только вонь. Суворов).

Полон хлев бесхвостых овец; *одна* была с хвостом — и та ушла (хлебы и лопата).

Премудрость *одна*, а мудростей много (т. е. хитростей).

Прямику *одна* дорога, поползну десять.

Равные обычаи — крепкая любовь. *Одна* думка, одно и сердце.

Рыболова *одна* тоня кормит.

Свинье в огороде *одна* честь: полено.
Свинья не знает чести. *Одна* честь свинье: помои.
Семеры яства, а все грибы (а все *одна* редька).
Семь деревень, а лошадка *одна*. На семь деревень *одна* лошадь.
Семь Семионов, *одна* Матрена (песты и ступа в мельнице).
Сентябрь. В сентябре *одна* ягода, и то горькая рябина.
Смерть всех сравниет. На всех *одна* смерть.
Смерть *одна*, да болезней тьма. Боль отбудешь — и так помрешь.
Соломы воз, а сахару кус (*одна* цена).
Сон да баба, кабак да баня — *одна* забава.
Табак да баня, кабак да баба — *одна* забава.
Так врет, что под ним ни *одна* лавка не устоит.
Тетереву вся зима *одна* ночь.
Тороча, тороча, *одна* ножка короче; пошел в передовин и остальную переломил (цеп).
Трижды венчан, а жена *одна* (поп).
У бога правда *одна*.
У волка всегда *одна* песенка.
У мордвы две морды, а шкура *одна* (т. е. два языка).
У мошника (тетерева) вся зима *одна* ночь (за одну ночь).
У семерых братьев по одной сестрице, много ли всех? (*Одна*.)
У Сидора попа не *одна* хлопота (дочь пристроить да жену уберечь).
Убогий во многом нуждается, а скупой во всем. Убогого *одна* нужда гнетет, скупого две (убожество и скупость).
Хорошая невеста — худая жена. Девка не жена: порода не *одна*.
Хоть денежка *одна*, да весела и покатна.
Четыре сестрицы вокруг гоняются; *одна* другой не догонит (воробы, мотовило).
Четыре ступихи, четыре гремихи, два бойца, *одна* маковица (корова).
Что за сено — *одна* сухая трава.
Что за скоромь — *одна* коровенка.
Шуми, деревня: четыре двора, двое ворот, *одна* труба.
Я *одна* шью, а все порют (Екатер. II).

(8) одной

Без *одной* не сотня. Не полна сотня — и сотни нет.

Будто из *одной* плахи вытесаны. Тут все на одну колодку.
В *одной* бочке два пива (яйцо).
В *одной* дежке (квашне) две приспешки (яйцо).
В *одной* избе разными вениками не мети: разойдется по углам богатство.
В *одной* квашне два притвора (яйцо).
В *одной* руке пусто, в другой ничего.
В *одной* стеклянке болтается, а никак не смешается (яйцо).
В *одной* шерсти и собака не проживет. В *одной* шерсти не пробыть.
В *одной* шкуре выходишь, в *одной* шерсти не выживешь.
Висит килка на *одной* жилке (рукомойник).
Все детки *одной* матки. Пять перстов, а все одна рука.
Все детки, да не *одной* матки.
Всё ерши, а плотвички ни *одной* (т. е. все злые люди).
Все черти *одной* шерсти. Все черти равны, все те ж бобры.
Всех угодий к *одной* полосе не подберешь.
Грешно об *одной* оглобле (т. е. дышле) ездить (расл).
Гусь стоит на *одной* ноге — к морозу.
Два медведя в *одной* берлоге не живут (не уживутся).
Два медведя в *одной* берлоге не живут.
Два медведя в *одной* берлоге не уживутся.
Два медведя в *одной* берлоге не улягутся.
Двум смертям не бывать, а *одной* не миновать.
Двух смертей не бывает (или: не будет), а *одной* не миновать.
Двух смертей не видать (не бывает), а *одной* не миновать.
Девять братьев под *одной* панкой (бабка спопов).
Дедушка домовой! Прощу твою милость с нами на новожитье; прими нашу хлеб—соль, мы тебе рады, только мы пойдем дорогой, а ты стороной (при переходе в новую избу хозяин говорит это, держа в *одной* руке икону, в другой ломоть хлеба с солью).
Детки почаски, едят из *одной* чашки.
Для *одной* выти, да руки мыти. За каждую выть, да руки мыть.
Добрую лошадь *одной* рукой бей, другую слезы утирай.
Друзьям и в *одной* могиле не тесно.
Если накануне вешнего Егорья не ступить босиком на пол, то летом ни *одной* змеи не будет.
Живучи *одной* головкой, и обед варить неловко.

— Иван, жена умерла! — *Одной* сатаной меньше!

И в *одной* бане, да не одни приметы.

И из *одной* печи, да не одни калачи.

И *одной* матки детки, да не равны.

Из *одной* (Из одного) двух не сделаешь.

Из *одной* бани, да не одни вести (басни).

Из *одной* избы и горячо и студено.

Из *одной* клетки, да не равны детки.

Из *одной* муки хлеба не испечешь.

Из *одной* мучки, да не одни ручки (т. е. испекли).

Из *одной* мучки, да не одни ручки.

Из *одной* печи, да не одни речи.

Кержак (раскольник) все жрет особо, а винцо так вкупе пьет (раскольники не едят из *одной* посуды с нами).

Костеря (брюзга) не улежит на *одной* постели.

Курица на *одной* ноге стоит — к стуже.

Ласковое теля двух маток сосет (прибавка: а бодливое ни *одной* не увидит).

Летело стадо птиц на рощу; если по две на дерево — одно дерево осталось; сели по *одной* — одного не достало. Много ль птиц и дерев? (Три дерева и четыре птицы.)

Лиха беда *одной* беде прийти, а победы с ног собьют.

Мед сохи да бороны не укроешься (т. е. *одной* пашней не проживешь).

Мы с ним из *одной* чашки кашу едим.

На *одной* неделе четверга четыре, а деревенский месяц — с неделей десять.

На *одной* неделе четверга четыре, и деревенский месяц с неделей десять.

На *одной* ноге стоит, рожком воду пьет (гусь).

На *одной* онучке сушены. Из *одной* землицы испечены.

На одном часу и снег и дождь. На *одной* неделе семь пятниц.

Найди ты пегого коня, да чтоб был весь *одной* масти.

Не всяк по канату пропляшет: иному дай бог и по *одной* половице пройти (хоть бы пьяному).

Не одним головой свет стоит (т. е. не одним волостным головой. Иначе: Не об *одной* голове, или: Не *одной* головой свет стоит).

Ни *одной* человеческой физиономии (нет фигур в картах).

Один в поле не воин. *Одной* рукой и узла не завяжешь.

Одной беде сразу не поддамся. С этой бедой еще покалякаем.

Одной женой да *одной* кобылой поля не удобришь.
Одной матери (отца) дети. Один отец, один и норовец.
Одной ногой в могиле стоит. Краше в гроб кладут.
Одной пчеле бог сроду открыл науку.
Одной рукой дает, другою отнимает.
Одной рукой жни, другою сей!
Одной рукой собирай, другою раздавай!
Одной рукой узла не завяжешь.
Одной шапкой двоих накрыл.
Он семь лет все на *одной* дудке играет.
Они *одной* школы, *одной* выучки, *одной* шерсти, масти, один черт.
От *одной* матки, да не одни ребятки.
Первой касатке (*Одной* ласточке) не верь.
Полы да черти *одной* шерсти.
По всем по трем, коренной не тронь, а кроме коренной нет ни *одной*.
По *одной* половице не пройдет. Не свистнет.
Под *одной* шляпой четыре брата стоят (стол).
Поддайся *одной* боли да сляг — и другую наживешь.
Р *одной*, да матери не *одной*.
С *одной* биржи, да не одинаки вирши.
С *одной* ягоды (т. е. с одних) сыт не будешь.
Семь в тебе душ, да ни в *одной* пути нет (двуличен).
Служил три лета, выслужил три репы, а красной ни *одной*.
Сорочи не сорочи, а как сорок без *одной*, так ступай домой.
Стоит Антошка на *одной* ножке (гриб).
Стоит Ерошка на *одной* ножке, крошит крошатку, ни себе, ни мне, ни другу (светец).
Стоит Трошка на *одной* ножке, крошит крошки (светец).
У него все причины в *одной* горсти.
У него *одной* клёпки нет; не все дома.
У *одной* овечки да семь пастухов (московская семибоярщина).
У семерых братьев по *одной* сестрице, много ли всех? (Одна.)
Употчевали гостя липовым лещом (т. е. *одной* ложкой).
Царево вино, царицыно вино в *одной* стклянице не смешаются (яйцо).
Четыре сестрицы под *одной* фатицей (стол).

Чуж одному (т. е. *одной* добродетели), чуж праведному.

Это нашего поля (бора) ягода. *Одной* руки пальцы.

(9) *одну*

Будто из одной плахи вытесаны. Тут все на *одну* колодку.

В *одну* лапу всего не сгребешь.

В *одну* ночь зима становится.

В *одну* петелку всех пуговиц не устегаешь.

В *одну* руку всего не загребешь.

В полдень можно сеять *одну* только пшеницу; остальное пропадет (западн.).

Взойду я, взойду на гой—гой—гой, ударю, ударю в цывиль—виль—виль; утки крякнут, берега звякнут: “Собирайтесь, детки, в *одну* клетку!” (Колокольня и церковь.)

Вкруг поля хожу, в *одну* жердь колочу (набивка обручей).

Волку зима за обычай. Мошнику (глухарю) вся зима за *одну* ночь.

Все на *одну* карту поставить.

Грек *одну* маслинку съест — и то пальчики обсосет.

Два ворона летят, *одну* голову едят (грядки и голбец).

Два ерша в *одну* вершу. Два сома в вершу. Двух на заряд.

Дом купи с жильцом, а жену бери *одну* (для себя)!

Едет скрипа-скрипулица, везет желтоперицу: курган, курган, пусти ночевать, мне не век вековать, *одну* ночь ночевать (телега, рожь, овин).

Кончай *одну* шкуру (сказали башкиры, с общего совета, когда пришлось наказывать многих из них).

Купить на сто рублей сто скотин, платить — и по десяти рублей за *одну*, и по пяти рублей, и по пятидесяти копеек; по сколько скотин придется на каждую цену? (По пятидесяти копеек девяносто скотин, по пяти рублей девять скотин, по десяти рублей одна скотина).

Лаком, что македонская княгиня: со щучки *одну* щечки кушает.

Лиша беда *одну* беду нажить, другая сама придет.

Лихо *одну* беду нажить, а та беда другую наживет.

Лыска не берет лишку: *одну* корку.

Медведь *одну* лапу сосет, да всю зиму сыт живет.

Мошнику (тетереву) вся зима одна ночь (за *одну* ночь).

Муж с женой бранится, да под *одну* шубу ложится.

Муж с женою бранится, да под *одну* шубу ложится.

Мужик тянет в **одну** сторону, баба в другую.

На **одну** ногу храмлет. Кто не прихрамывал?

Не век вековать, **одну** ночь ночевать.

Не имей двух коров, имей **одну** дочь (насмешка над подгородными) .

Одна в **одну** пригожеством и дородством.

Одну беду перебедеуешь, а всех бед не перебедевать. Беды плодливы.

Одну выпьешь — боишься; другую выпьешь — боишься; а как третью выпьешь, уж и не боишься (отвечал солдат на вопрос, как он не боится пить, зная, что накажут).

Они в **одну** руку играют. Одно заодно.

Пестра сорока, белобока, а все одна в **одну**.

Плоха мышь, что один только лаз (**одну** лазею) знает.

По дважды и бог за **одну** вину не карает.

Поставить на **одну** доску. Несверстного не верстай.

Пошел я на лыко гору драть; увидал, на утках озеро плавает. Я сробил три палки: **одну** еловую, другую березовую, третью рябиновую; бросил еловую — не добросил, бросил березовую — перебросил; бросил рябиновую — угодил; озеро вспорхнуло, полетело, а утки остались.

Прежде **одну** свинью кормили, а теперь с поросятами (о снохе).

Ребенок растет в день на **одну** мачинку, в год на пяденьку (а каждый раз, когда мать ударит его по голове, он на мачинку сседается, оттого упрямые малорослы).

С **одну** сторону черемиса, а с другой берегися (1524 г. войско на судах шло под Казань и побито в порогах черемисами).

С **одну** сторону черемиса, с другую берегися (историч.).

Семеро **одну** соломинку поднимают.

Скрынит скрышница, едет царца, просится у царя почевать: “Пусти меня, царь, почевать, мне не год годовать, **одну** ночь ночевать; утре придут разбойнички, разобьют мои косточки, отнесут в пресветлый рай!” (Рожь и овин).

Смирное дитя **одну** руку, а блажное обе отымает.

Стричь всех под **одну** гребенку.

У богатого мужика борода помелом, у бедного клином (богатый говорит: такой—то мне должен, — и расправит бороду в **одну** сторону; — и такой—то, — расправит в другую; бедный: и я ему должен, — да всю бороду и сгребет в горсть).

У мошника (тетерева) вся зима одна ночь (за **одну** ночь).

Утка крикнет, берега звякнут: “Собирайтесь, ребятки, в деревянну матку!” (или: “Собирайт-

есь, детки, в *одну* клетку!”) (Церковь.)

Хлебай уху, а рыба вверху (по низовью Волги красная рыба скупается вся и идет вверх, в столицы; народ же ест *одну* разварную уху из черной рыбы).

Худа та мышь, которая *одну* только лазею знает.

Честный муж *одну* только жену обманывает.

Четыре сестрицы в *одну* лунку плюют (доение коровы).

Четыре сестрицы в *одну* лунку целят (доить корову).

(10) одною

Законною женою будь доволен и *одною*.

Обогреть постель молодых. Выкупить постель (постель обогревается *одною* из родственниц невесты, а молодой должен выкупить ее).

(11) одни

Без пригляду *одни* только муравьи плодятся.

Будто *одни* шубники (скорняки) в шубах ходят?

Был и квас, так не было вас; а остались *одни* квасины (или: а как не стало ни квасины), так и вас разносило.

Вороново крыло на руках (*одни* пики).

Высох, как лист, как спичка. Кости да кожа, *одни* ребра.

Два дурака сошлись в *одни* ворота.

Дом (т. е. хозяйство): *одни* буйны ветры по углам перекликаются.

И в одной бане, да не *одни* приметы.

И из одной печи, да не *одни* калачи.

Из одних яслей, да не *одни* басни.

Из одного города идут, а не *одни* вести несут.

Из одного места, да не *одни* вести.

Из одной бани, да не *одни* вести (басни).

Из одной мучки, да не *одни* ручки (т. е. испекли).

Из одной мучки, да не *одни* ручки.

Из одной печи, да не *одни* речи.

Кости глядят, а мяса не видать. *Одни* кости да кожа.

Кто босиком по грибы пойдет, тому *одни* старые грибы дадутся.

Кушают *одни* только свиньи (а люди едят).

Много красы: **одни** скулы да усы.

На одном вече, да не **одни** речи.

Наши барыши — **одни** медные гроши.

Не спас обыденный, поспешь (обыденные церкви строились миром, по обету, в **одни** сутки).

Ни в печи, ни под столом не заставай гуся, а застань на столе (в печи — рано; под столом — поздно, **одни** кости).

Никола обыденный (сибирск., т. е. сооруженный в **одни** сутки, как в Вологде спас обыденный).

Одни ворота, что на двор, что со двора.

Одни глаза и плачут и смеются.

Одни колокола поют (т. е. не служат).

Одни лапти без меры плетутся, да на всякую ногу приходится.

Одни одного (Одно одного) стоит.

Одни плачут, а другие скачут. Кто плачет, а кто пляшет.

Одни сласти есть — горечи как узнаешь?

Одни уста и теплом и холодом дышат.

От одной матки, да не **одни** ребятки.

Про **одни** дрожжи не говорят трожды.

Про **одни** дрожжи посылай трожды.

Сбил, сколотил — вот колесо; сел, да поехал — ах, хорошо! Оглянулся назад, **одни** спицы лежат (оглянулся назад — нет ничего).

Сказали, у жениха сапоги хороши: ан закаблущья **одни**.

Сытен чужой обед, а все только на **одни** сутки.

Трои ворота в воду, а не в **одни** нет ходу (или: броду).

Хвастала, что батька богат: ан **одни** черевички да запятки скривят.

Хвать — ан мягких пять (т. е. **одни** пальцы).

Хороша бы хлеб — соль, да **одни** корочки.

Хочу вскочу, не хочу не вскочу (от обычая Тамб. губер. приглашать невесту вскочить в юбку, поневу, которую носят **одни** замужние).

Чего ищешь? — Да рукавиц. — А много ль их было? — Да **одни**. — А **одни**, так на руках.

Это были **одни** цветики, теперь пойдут ягодки.

Это **одни** запевки, а послушаем подголосков да выносного.

(12) **одних**

Барыш с накладом в **одних** сапожках ходят.
 Барыш с накладом на **одних** санях ездят.
 Барыш с убытком в **одних** санях ездят.
 Выигрыш с проигрышем на **одних** санях ездят.
 Двум головам на **одних** плечах тесно.
 Двум шпагам в **одних** ножках не ужиться.
 Двух шпаг в **одних** ножнах не живет.
 Зяб—перезяб в **одних** фerezях (окно).
 Из **одних** уст клятва и благословение.
 Из **одних** яслей, да не одни басни.
 Мужик **одних** горячих блинов не наестся (он ест их, завернув ломоть хлеба в блин).
 На **одних** подметках семи царям служил.
 Не по нас **одних** беда пришла, да не легче нам.
 С одной ягоды (т. е. с **одних**) сыт не будешь.
 Счастье с несчастьем на **одних** санях ездят.

(13) **одними**

Разберу беляну (т. е. судно) **одними** руками, не соберешь беляны всеми городами (щепать лучину).

1.2 **ДВА**

個数詞2には次の種別があり表に示したように変化する。この変化形のすべてについて該当するものを抽出したものを以下に示す。個数詞1と同様、語尾が同一のものはまとめることにした。個数詞2は物事の始めの部分を表す数字であり、身近な数であるため用例も相当多く455項目が検出された。比率では資料全体の1.32%である。

	主格	生格	与格	対格	造格	前置格
男性・中性	два	двух	двум	主または対	двумя	двух
女性	две	двух	двум	主または対	двумя	двух

(1) **два**

А черт его знает! Убирайся к черту! Черт его побори! Черта с **два**! и пр.
 Аптека — не на **два** века. Не лечит аптека — калечит.
 Аршин ан кафтан, да **два** на заплаты.

Без вина — одно горе; с вином — старое одно, да новых **два**: и пьян и бит (и пьян, и голова болит).

Битая посуда **два** века живет.

Благому чудотворцу Николаю **два** праздника в году, а Касьяну немилостивому один в четыре года.

Блин съешь, а **два** вымечешь.

Бог дал **два** уха, а один язык.

Богатый не по **два** раза обедает, а и бедному мосол — он и сыт и весел.

В головы кулак, а высоко — на **два** пальца спустил (Скобелев).

В **два** кулака (т. е. сам—друг) сподручней.

В лыковце четыре, во ржавце **два** (вымя у коровы и у козы).

В одной бочке **два** пива (яйцо).

В одной квашне **два** притвора (яйцо).

В одном калинничке **два** тестечка (яйцо).

Весь лес в обрез, **два** дерева выше всех (ушат).

Воевода год помечает, а **два** отвечает. Год пометы, а три ответа (от старин. срока).

Воз рассыпал, а **два** нагреб.

Всякому по толчку, а зевакам по **два**.

Где **два** дурака дерутся, там третий смотрит.

Где **два** оленя прошло, там тунгусу большая дорога.

Где **два**, там не один.

Где **два**, там не один. Коли **два**, так не один.

Где ровный бой (**два** брата), там все (отцовское) пополам.

Гляди в **два**, а не в полтора!

Год — не пелели, покров — не теперь, до Петрова дня — не **два** дня.

Год поживет — рог наживет, **два** поживет — **два** наживет; а три поживет — хозяина сбодет (о прислуге).

Год поживет, рог наживет; **два** проживет, **два** наживет; а три проживет — и хозяина сбодет (работник).

Год торгуй, **два** воруй, а три в яме сиди.

Губы да зубы — **два** запора (забора), а удержу нет.

Гусь да баба — торг; **два** гуся, две бабы — ярмарка.

Дал бы и **два**, да нет и одного.

Два (Двое) одному рать. Много и того, как **два** на одного.

Два Анисима, четыре Максима, сельмая Софья (стул, спинка, ножки, сиденье).

Два Демида, а оба не видят.

Два Демида, да оба не видят.

Два Егорья: один холодный, другой голодный (26 ноября, 23 апреля).

Два Николы: один с травой, другой с морозом.

Два Николы: теплый и холодный; *два* Егорья: холодный и голодный.

Два Николы; один травный, другой морозный.

Два белыша ведут черныша (чело печи и очельш).

Два бога увязло, пришел Спас да Миколе в глаз (пробои, замок и ключ).

Два борова дерутся, промеж их пена валит (жернова).

Два брата (с) Арбата, оба горбаты.

Два брата купаются, а третий насмехается (ведра и коромысло).

Два брата на медведя, а *два* свата (свояка) на кисель.

Два брата на медведя, а *два* свата на кисель.

Два брата на медведя, *два* свата — кисель.

Два брата родные, и оба Ивановичи, да один Дон, а другой Шат (т. е. один дельный, другой шатун. Реки Дон и Шат обе текут из Иван—озера).

Два брата с Арбата, а оба горбата.

Два братца в воду глядятся, век не сойдутся (речные берега).

Два братца век бегут, *два* братца век нагоняют (колеса).

Два братца глядятся, а вместе не сойдутся (пол и потолок).

Два братца одним пояском опоясаны (*два* кола).

Два братца пошли в воду (в рай) купаться (ведра).

Два братца хотят подраться, да руки коротки (коромысло).

Два брюшка, четыре рожка (подушка).

Два бурава (крота), четыре хвоста (лапти).

Два быка бодутся, вместе не сойдутся (небо и земля).

Два века не изживешь, две молодости не перейдешь.

Два веника в коробке да мышь в подполье.

Два волка бежат, оба в небо глядят (полозья).

Два ворона летят, одну голову едят (грядки и голбец).

Два глаза, да и те за носом (т. е. не видят).

Два горя вместе да третье ахти мне!

Два горя вместе, третье пополам.

Два гриба на ложку (а третий к стеблю пристал).

Два двачка, *два* очка, *два* корытечка (глаза).

Два дровосека, *два* дровокола, *два* дроворуба говорили про Ларю, про Ларьку, про Ларину жену.

Два дурака дерутся, а третий смотрит (подпись на картине, где под третьим разумеется тот, кто смотрит).

Два дурака дерутся, третий смотрит (надпись на лубочной картине, где третьего не видно).

Два дурака сошлись в одни ворота.

Два дурака, да у каждого по *два* кулака.

Два ерша в одну вершу. *Два* сома в вершу. Двух на заряд.

Два клубка через грядку висят (глаза).

Два комка, третья лакомка (груди и младенец).

Два конца, *два* кольца, а в середине гвоздик (ножницы).

Два корабля идут с божьего суда, а третий на божий суд (хлеб семенной).

Два косяка с притолокой, *два* полколеса, *два* стяга с колесом, *два* стяга с крючком (покой).

Два кота в одном мешке не улежатся.

Два кума Абакума, две кумы Авдотьи, пять Пантелеев (Фалалеев) да десять Андреев (дровни, полозья, оглобли, копылья).

Два кума Аввакума, две кумы Авдотьи.

Два лета по зиме, одно само по себе.

Два лукошка земли в Ломове да гнилое болото в Уколове (ничего).

Два медведя в одной берлоге не живут (не уживутся).

Два медведя в одной берлоге не живут.

Два медведя в одной берлоге не уживутся.

Два медведя в одной берлоге не уживутся.

Два мужа наружу да один в сундуке (от комедии).

Два орла орловали, третьего купали (о крещении).

Два подъячих воят Марью вертячу (крючья и дверь).

Два полотенца из дубового поленца (приданое).

Два раза молоду не быть, а смерти не отбыть.

Два раза родился, ни разу не крестился, сам пел, а умер, не отпели (петух).

Два рога, а не бык, шесть ног без копыт (рак).

Два свояка, а промеж их собака. Свояки до дележа братья.

Два свояка, между их черная собака (чело, труба, дым).

Два сидня, *два* лежня, *два* поползня (дети).

Два слова басен — да и все дело тут.

Два стоят, *два* лежат, пятый ходит, шестой водит, седьмой песенки поет (дверь: косяки, притолока и порог, полотно, рука, пята).

Два стоят, *два* ходят, двое промеж ними часы стерегут (небо и земля, солнце и луна, день и ночь).

Два стоящих, *два* ходящих и *два* минующих (небо и земля, солнце и месяц, день и ночь).

Два таких круга или один тусклый — к морозу; красный круг — к ветру, перерванный — к снегу.

Два только глаза, да и те за носом.

Два ушка, *два* рожка, посередине прорость (крестьян. рукомойник).

Два фонаря на пустой каланче (красивые глаза, да пустая голова).

Два хвоста — елоза проста (лапти).

Два хлыста, а ни у одного нет конца (хвоста).

Два чиренка — тот же утенок.

Два яичка в моху, да морковка наверху (глаза и нос).

Два-ста пудаства, четыре-ста копыластва, один болтун да *два* ухтахта (корова: туловище, ноги, вымя, глаза).

Два-ста рогаства, четыре-ста ходаства, один махтун и *два* ухтахта (корова: *два* рога, четыре ноги, хвост и *два* уха).

Два-ста рогаства, четыре-ста ходаства, один хтырок да *два* ухтырка (корова).

Две ковырки, две подковырки, один вертун, *два* войка, третья маковка (кошка).

Две ступицы, две гремицы, *два* войка, третья маковка (корова).

Дворянское кушанье — *два* грибка на тарелочке.

День иноходит да *два* дни не ходит (говор. о лошади иноходце и о пьянице, весьма исправном, когда трезв).

День иноходит, а *два* со двора не сходит (о щегольской лошади, негодной в работу).

Доброе дело на век (или: на *два* века: на этот и на тот).

Дурак на дурака нашел, и вышло *два*.

Дураку хоть кол теши: он своих *два* ставит.

Его не переслушаешь. Его в *два* уха не уберешь.

Един бог; *два* тавля Моисеевых; три патриарха на земле; четыре листа евангельска; пять ран господь претерпел; шесть крыл херувимских; семь чинов ангельских; восемь кругов солнечных; девять в году радостей; десять божьих заповедей; единдесять праотец; *два* на десять

апостолов.

За него грош дать — не додать, а *два* дать — передать.

Завистливый поп *два* века живет.

Закрой чужой грех — бог *два* простит!

И овцы целы, и волки сыты. *Два* угодыя: и сыт, и пьян.

Играть на кожаной скрипке в *два* смычка без канифоли.

Из одного *два* сделаешь — оба скоротаешь (или: оба бросишь).

Как дважды *два* — четыре (верно).

Как станет врать, так его в *два* охвата не обнять.

Книга — в ней *два* листа, а середка пуста.

Коли один говорит, так двое глядят да двое слушают (т. е. *два* глаза, *два* уха и один рот).

Кому перстом кивают, а нам всем глазом (в *два* глаза) мигают.

Которая корова пала, та по *два* удою давала (т. е. ее долго поминают).

Кто пьян да умен, *два* угодыя в нем.

Кто смел, *два* съел; кто проворен, тот доволен.

Кто смел, тот *два* съел, да и подавился.

Кто смел, тот *два* съел.

Лентяй да шалопай — *два* родных брата.

Летом *два* дня льет — час сохнет, осенью — час льет, две недели

Лиловы *два* котла, да и те сгорели дотла (приданое).

Ложка узка, берет по *два* куска: развести пошире — возьмет четыре.

Ложка узка, таскает по *два* куска, развести пошире, вытащит четыре.

Мал да глуп — больше быют; стар да умен — *два* угодыя в нем.

Маленький, удаленький — лосиный скок, звериный взгляд, пять братьев ловили, да не изловили; *два* брата словили, да и убили (блоха).

Метут в *два* веника (о ссоре супругов).

Много и того, как *два* на одного; а мало того, как двое на троих.

Много ль родни? — Кум да прикумок, ручной деверь да *два* пустосвата.

Молчок: разбил батька горшок; а мать хоть *два*, да никто не зна.

Мужик год не пьет, *два* не пьет, а бес прорвет — все пропьет.

Мужик год не пьет, *два* не пьет, а как запьет (или: а как его прорвет) — все пропьет.

Мужик год не пьет, и *два* не пьет, а как черт прорвет, так и все

На Руси *два* Егорья: один холодный, другой голодный (26 ноября и 23 апреля).

На одного жида — *два* грека, на грека — *два* армянина, на одного армянина — *два*

полтавских дворянина.

На поле Арском, на рубеже татарском, **два** орла орлуют, одним языком балуют (крестины).

На полке в кошличке лежит **два** яичка (глаза).

На реке на Клязьме **два** борова увязли: пришел спас да ткнул в Николин глаз (пробой и замок).

На св. Петра дождь — урожай нехудой, **два** дождя — хороший; три — богатый.

На то **два** уха, чтоб больше слушать.

На торгу **два** дурака: один дешево дает, другой дорого просит.

Наши ребята не вислопяты: идут по **два** в ряд, не объют пят.

Не в **два** кулака (молота), не железо кипит.

Не **два** месяца светят, не **два** солнышка греют.

Не двоеданцы, не по **два** ясака (или: оброка).

Не изведан — друг; а изведан — **два**.

Не тороиом на мерина (на конь), не по **два** вдруг.

Не торопко, поповна, не по **два** вдруг.

Не тяжело свое тягло, а как **два** потянешь, так устанешь.

Нечет с нечетом тот же чет. **Два** сапога пара.

Ни **два**, ни полтора. Худого нет, а хорошего не бывало.

Ни небо, ни земля, видением бела; трое по ней ходят, одного водят; **два** соглядают, один повелевает (бумага, пальцы, перо, глаза, ум).

Ногой топчу, животом нажму, рукой шмыгну, **два** раза колону и опять начну (тканье).

Оба **два**, да ни в одном добра.

Обиженного обижать — двойной грех (или: **два** греха).

Овому талан, овому **два** (прибавка: а нет талану, не пришьешь к сарафану).

Один Иван — должно; **два** Иван — можно; три Иван — никак не возможно (сказал немец про Ивана Ивановича Иванова).

Один в Кесово, другой в Разлисово (**два** села Каш. у., Твер. губ.)

Один под овин, а **два** под дорогу (о снопах).

Один приказчик — один вор; **два** приказчика — **два** вора.

Один раз (Однава) перевозиться (домом) — полпожара выстоять; **два** раза (двою) перевозиться — весь пожар выстоять.

Один сын — не сын, **два** — не кормильцы.

Один сын — не сын, **два** сына — не сын, три сына — сын.

Один сын — не сын, **два** сына — полсына, три сына — сын.

Один ум — пол-ума; три ума — полтора ума; **два** ума — ум.

Один, другой — обчелся. Раз, **два**, три — обчелся.

Одному началу один и конец. Одному началу не **два** конца.

Ой, избоины маковой, под окошками плакала, на грош **два** кома! — Тащи чугуны, железо, худы голицы, хрусталь, кости (дурандашники)!

Он еще сверх плута на **два** фута.

От копеечной свечки (От искры) Москва загорелась (**два** большие пожара, по преданию).

От оспы: три горошины перебирать счетом трижды по девяти раз, считая — ни раз, ни **два**, ни три...

Парень и теперь рубля стоит, а как ему бока надуть — и **два** дадут.

Первые города от Москвы — **два** девяносто верст (Владимир, Тверь, Тула, Калуга, Рязань).

Первый парень на деревне, а деревня в **два** двора.

Первый спас час припас; Петр и Павел **два** прибавил, а Илья пророк три приволок.

Петр и Павел **два** прибавил (**два** часа дня).

Пиво с кваском (с кислотой), лошадь с запинкой да человек с ленцой **два** века живут.

Пинежане: Покупала по четыре денезки, продавала по **два** grosyкa; барыша куца куцей, а денег ни копиоцки.

Пишет в **два** пера, да денежка не спора (т. е. пьяница).

По **два** гриба в ложку (а третий к стеблю пристал).

По-латыни **два** алтына, а по-русски шесть копеек.

Под мостом, мостищем, под соболем, соболицем **два** соболька разыгрались (глаза).

Покупала по четыре денежки, а продавала пару по **два** грошика.

Поле поливанское, много скота ивановского, один пастырь и **два** яхонта (небо, звезды, бог, луна с солнцем).

Продорожил, ничего не нажил, а проденевил да **два** раза оборотил — нажива и есть.

Прошли петровки, опало по листу; прошел Илья, опало и **два**.

Пьян да умен — **два** угодя в нем; пьян да глуп, так больше бьют.

Пьян да умен, **два** угодя в нем.

Пьян да умен, **два** угодя в нем; пьян да глуп, больше бьют.

Раз, **два** — упала гора; три, четыре — прицепило; пять, шесть — бьют шерсть; семь, восемь — сено косим; девять, десять — деньги весить (конаются в игре).

Раз, **два**, три (т. е. живо, скоро, проворно).

Рубит в **два** топора, да работа не спора.

Рубль — ум; а **два** рубля — **два** ума.

Рубль наживает, а *два* проживает.
С одного мешка не *два* помола.
Савраска да каурка — на *два* века.
Скатерти нет, а столечник есть да *два* полотенца.
Склеенная (сколоченная, битая) посуда *два* века живет.
Сколоченная посуда *два* века живет.
Сколько (часов) било? — Один бил, *два* держил (отвечал немец, которого наказали).
Скоро, так спасибо; а споро, так и *два*.
Солощая корова *два* века доит (новг.).
Сонливый да ленивый — *два* родные братца.
Сорок недель в тюрьме сидел, *два* года на виселице висел (человек).
Так хорошо, что любо (люба с *два*).
Тара-бара — и вышло ни *два*, ни полтора.
То не пеня, что кусок куска тянет; а то пеня, как *два* заденет.
Три ноги, *два* уха да шестое брюхо (лохань).
Триста шестьдесят пять галок, пятьдесят *два* сокола, двенадцать орлов, сосенка золотая, маковица сухая (год).
Туда-сюда рубль, так-сяк *два*, за корову полтора (отчет хозяйки).
Туда-сюда рубль, там-сям *два*, за мутовку — полтора, и все.
У бедного и *два* гроша — куча хороша.
У мордвы две морды, а шура одна (т. е. *два* языка).
У нас (во Владимире) много уголья: от Москвы *два* девяносто да из Клязьмы воду пей.
У нашего старосты четыре радости: лошади пропали, коров не найдут, *два* брата в солдатах, сестра в денщиках.
У нашего хозяина *два* кваса: один как вода, а другой пожиже.
У праздника *два* невольника: одному хочется пить, да не на что купить, а другого потчуют, да пить не хочется.
У ребят, что у зайчат: по *два* зуба.
У скупого за *два* тчивых выйdet.
Ужалила пчела — *два* мерина со двора .
Ум хорошо, а *два* лучше (лучше того).
Ум хорошо, а *два* лучше (того).
Ум хорошо, а *два* лучше того.
Ума — *два* гумна, да баня без верху.

Флору не тяжело тянуть свое тягло, да скоро Флор устанет, как *два* тягла.
Хозяйка из села Помелова, из деревни Вениковой, пирожок испечет, и корова не ест; да поставит (растворит) три, посадит (в печь) *два*, а вынет один.
Хозяин по двору пройдет — рубль найдет; назад пойдет — другой (*два*) найдет.
Хотел задом *два* стула захватить, да и сел — промеж двух, наголе.
Худ Пермяк, да *два* языка знат.
Худ пирог, да съелся; добр пирог, да не за *два* пошел.
Целых *два* чина: дурак да дурачина.
Человек *два* раза глуп живет: стар да мал.
Четыре ступихи, четыре гремихи, *два* бойца, одна маковица (корова).
Четыре стучихи, четыре гремихи, *два* богомола, один вихлец (корова: ноги, рога, хвост).
Четыре ходастых, *два* бодастых, один хлебестун (корова).
Четыре четьрки, две растопырки, один вертун да *два* яхонта (кошка).
Чистом поле две трубы трубили, *два* соболя играли (лицо, рот, нос, глаза).
Что *два*, то не один. То *два*, а то полтора.
Что ты так зла, аль давно на медведских дубах не была? (У Мещовска, Кал. губ., при селе Медвежках *два* сухих дуба, где, по преданию, собираются ведьмы).
Шли сорок мышей, несли сорок грошей, две мыши поплоче несли по *два* гроша.
Эко счастье: *два* пузыря на ложку.
Это вернее смерти. Как дважды *два* — четыре.
Эх, раз, по *два* раз! расподмахивать горазд; кабы чарочка винца, *два* стаканчика пивца, на закуску пирожка, для потешки девушка!
Ягода, ягода! Не видал тебя *два* года, а и еще бы пять лет, так бы нужды нет.
Январь *два* часа дня прибавит (к 31 января прибуд. 2 ч. 20 мин.) .
Яровую рожь и пшеницу сеять в полнолуние, овес *два* дня после или прежде.

(2) *двух*

В Севске поросенка на насест сажали, приговаривая: цайпайся, цайпайся, курочка о *двух* лапках, да держится.
Видно, он о *двух* головах.
Где любя, там не дают; где не любы, там *двух* да трех.
Два ерша в одну вершу. Два сома в вершу. *Двух* на заряд.
Двои дети водить — одним досадить (т. е. от *двух* матерей).
Двух смертей не бывает (или: не будет), а одной не миновать.

Двух смертей не видать (не бывает), а одной не миновать.

Двух шпаг в одних ножнах не живет.

Для (Про) глухого *двух* обеден не служат. Про глухого не две обеды служить.

До *двух* раз прощают и в третьи бьют.

Ему бы надо брюшко вспороть, все кишочки перемыть да меж *двух* пальчиков пропустить (т. е. переделать на ново — таков он негодяй).

За битого *двух* небитых дают.

За одного битого *двух* небитых дают (прибавка: да и то не берут).

За одного битого *двух* небитых дают, да и то не берут.

За одного битого *двух* небитых дают.

За одного ученого *двух* неученых дают.

За ученого (битого) *двух* неученых (небитых) дают, да и то не берут.

Завистливый своих *двух* глаз не пожалеет.

Из *двух* зол выбирай меньшее!

Из одной (Из одного) *двух* не сделаешь.

Кирик и Улита (говорится о *двух* неровных людях или вещах).

Кто молчит, тот *двух* научит.

Кто подъячего обманет, тот *двух* дней не проживет.

Ласковое теля *двух* маток сосет (а бодливому ни одна не дастся).

Ласковое теля *двух* маток сосет (прибавка: а бодливое ни одной не увидит).

Ласковое теля *двух* маток сосет, а бодливому ни одна не дается.

Ласковый теленок *двух* маток сосет.

Между *двух* светил я в середине один (нос).

Не имей *двух* коров, имей одну дочь (насмешка над подгородными).

Не скажешь подлинной, так скажешь подноготную (от *двух* родов пытки: длинников, или батогов, и подноготной).

Нежданный гость лучше жданных *двух*.

Нижний — сосед Москве ближний: дома каменные, люди железные. Воды много, а почерпнуть нечего (Нижний, на *двух* реках, но на горе).

Один битый *двух* небитых стоит.

Одним камнем *двух* собак разогнал.

Одно нынче лучше *двух* завтра.

Остался меж *двух* наголе (сел промеж *двух* стульев; угождая двоим, не угодил ни одному).

Остался промеж *двух*, наголе.

Палка о **двух** концах: и туда и сюда.

Палка о **двух** концах: либо ты меня, либо я тебя.

Попался в перекрестную. Попал промеж **двух** огней.

Попался впросак. Сел промеж **двух** наголе.

Промеж **двух** морей, по мясным горам, гнутый мостик лежит (коромысло с ведрами).

С одного вола **двух** шкур не дерут.

С одного волка **двух** шкур не дерут. С одного вола не две шкуры.

Старуха на двое сказала. Всякая вещь о **двух** концах.

Старый друг лучше новых **двух**.

Старый друг лучше новых **двух**. Старая любовь помнится.

Счастье, что палка: о **двух** концах.

Тут и о **двух** голов пропадешь (не выйдешь).

У **двух** матерей по пяти сыновей (пальцы).

У **двух** матерей по пяти сыновей, все в одно имя (то же).

Угодило зернышко промеж **двух** жерновов.

Урожай на орехи **двух** лет сряду не бывает.

Утром на четырех ногах, в полдень на **двух**, под вечер на трех (человек).

Хотел задом два стула захватить, да и сел — промеж **двух**, наголе.

Хоть за нищего, да в Конищево (село в **двух** верстах от Рязани, т. е. отдать девку по соседству). Хоть за лыску (старика), да близко (да в Лысково, село Васил. У., Нижегород. губ.)

Что осмнадцать, что без **двух** двадцать.

(3) двум

Двум головам на одних плечах тесно.

Двум господам не служат.

Двум любо, третий не суйся (а третьему — зась)!

Двум смертям не бывать, а одной не миновать.

Двум шпагам в одних ножках не ужиться.

(4) двумя

За *двумя* зайцами погонишься, ни одного не поймаешь.

По заслугам Ваньку Каину пожаловали (*двумя* столбами с перекладиной).

Пожаловать кого *двумя* столбами с перекладиною (повесить).

С *двумя* полями сжатыми, с третьим засеянным (поздравление в пожинках).

Трех ворогов не держи себе, а с *двумя* помирись!

(5) *две*

Баба прядет — не по *две* рубахи носит, а мужик не прядет — да не наг ходит.

Бабье лето семь дней, по Аспасов день. Бабье лето *две* недели.

Барашки у милашки, а *две* сумы у Фомы.

В лес иду — *две* меты кладу; из лесу иду — *две* другие кладу (лыжи).

В один день по *две* радости не живет.

В одной дежке (квашне) *две* приспешки (яйцо).

В поле — *две* воли: кому бог поможет.

В поле — *две* воли: чья сильнее.

В поле *две* воли — чья возьмет (чья сильнее или: чья правее, та и сильнее).

В поле *две* воли (старин., поле, поединок).

В поле *две* воли (т. е. чья сильнее). В поле воля.

В поле *две* воли: чья возьмет.

В поле *две* воли: чья сильнее (эти погов. относятся к бою и к старинным поединкам).

Войско сухопутное — одна рука; а сухопутное и морское — *две* (Петр I).

Выйду в лес без топора, без долота; высеку *две* лодки ездовых, *две* доски половых, горшку покрывку, уполовнику ручку (желудь).

Выпил *две*, да и не помнит где.

Выпил чарку, выпил *две* — зашумело в голове.

Где баба, там рынок; где *две*, там базар.

Где *две* бабы, там суём (сейм, сходка), а где три, там содом.

Где *две* бабы, там суём (сейм? или от со-иматься, схватиться, схватка?); где три, там содом.

Где нищий не бывал, там по *две* милостыни дают.

Глухому поп *две* обедни не служит.

Гусь да баба — торг; два гуся, *две* бабы — ярмарка.

Дай дураку волю, а он *две* возьмет.

Два века не изживешь, *две* молодости не перейдешь.

Два кума Абакума, *две* кумы Авдотьи, пять Пантелеев (Фалалеев) да десять Андреев (дровни, полозья, оглобли, копылья).

Два кума Аввакума, *две* кумы Авдотьи.

Дважды молоду не бывать. Не по **две** молодости жить.

Две бараньи головы в один котел не лезут (что-нибудь да торчит).

Две бараньи головы в один котел не лезут.

Две головни и в поле дымятся (курятся), а одна и в печи гаснет.

Две головы и шесть ног; четыре ходят, а **две** смирно лежат (вершник).

Две головы, один хвост, **две** руки и шесть ног(то же).

Две деревяки, четыре коряки, восемь дыр верченых, девятая долбаная (вололье ярмо).

Две ковырки, **две** подковырки, один вертун, два войка, третья маковка (кошка).

Две косы и рядом, и в кучке, а **две** прялки — никак.

Две кошки в мешке дружбы не заведут.

Две лошади белые, третья голая.

Две ляжки в пристяжке, а сам в корню.

Две матери, **две** дочери да бабушка со внучкой, а их всего трое (мать, дочь и внучка).

Две ноги подходят, **две** руки подносят, одна голова кланяется.

Две полы, да и те голы.

Две рубахи мокнут в ушате, да двое порток сохнут на ухвате.

Две собаки грызутся, а третья не приставай (не впрядайвай)!

Две собаки грызутся, третья не приставай.

Две собаки дерутся (грызутся), третья не суйся!

Две ступицы, **две** гремицы, два войка, третья маковка (корова).

Две тысячи веников, пятьсот голиков, по три денежки сотня — много ли рублей?

Две шубы тепло, **две** хозяйки добро (о снохе).

Две ярочки — та же овца.

Для (Про) глухого двух обеден не служат. Про глухого не **две** обедни служить.

Ему дай волно, а он **две** возьмет.

За эту бородку давали **две** новгородки, третью ладожанку.

И горшок с горшком столкнется, а **две** хозяйки у шестка — завсегда.

Из одного меха **две** завойки выкраивает.

Ино от комара да в **две** руки не отмашешься.

Иной по **две** обедни слушает, да по **две** души кушает.

Как **две** капли воды. Точка в точку, как мать в дочку.

Коли на Евдокию холодно, скот кормить лишние **две** недели.

Конь, нога бела — десять рублей, **две** ноги белы — двадцать рублей, три ноги белы — тридцать рублей, а четыре ноги белы — четыре рубля.

Кузька да Васька ездили на Вятку, купили *две* шапки о четырех углах — туда угол, сюда угол, по середке кисть, по затылку хлысть (дерут за волосы в карточной игре).

Ласковы телятки сосут по *две* матки.

Лен *две* недели цветет, четыре недели спеет, на седьмую семя летит.

Летело стадо птиц на рощу; если по *две* на дерево — одно дерево осталось; сели по одной — одного не достало. Много ль птиц и дерев? (Три дерева и четыре птицы.)

Летом два дня льет — час сохнет, осенью — час льет, *две* недели

Лучше бы у собаки татарина жена померла, чем у меня (у него *две*).

Мать пазуху прорвала, деткам прячучи, а детки пазухи (или: *две*) прорвали — от матки прячучи.

Мать, прятав детям, пазаху прорвала, а дети, прятав от матери, по *две* прорвали.

Мужик не прядет, а без рубашки не ходит; а баба и прядет, да не по *две* носит.

Мужик не прядет, да не наг ходит (или: да не без рубахи ходит); а баба и прядет, да не по *две* носит.

На крайчике, на сарайчике *две* куколки сидят, обе врозь глядят (рога).

На старости *две* радости: один сын — вор, другой — пьяница.

Начало капусткам, капустниц, капустенских вечеров (кои длятся *две* недели).

Не по *две* дани с дыму (или: с тягла).

Не прядет мужик, да без рубахи не ходит; а баба и прядет, да не по *две* вдруг носит.

Невеста с приданым: у рук, у ног пальцев по *две* дюжины без мала, только четырех не достало.

Нога ногу минует, а голова головы не минует (т. е. свои *две* ноги и встреча с другим).

Одна головня и в печи гаснет, а *две* и в поле курятся.

Одна головня и в поле гаснет, а *две* дымятся (курятся).

Одна до дна, а *две* вполовину.

Одна правда (т. е. не *две*) на свете живет.

Первое, что я вина в рот не беру; второе, что сегодня и день не такой; а третье, что я уже *две* рюмочки выпил.

По *две* воложки на ложку. Не по *две* морошки в ложку.

По *две* вши на щепоть.

По *две* пошрины с одного товара не берут.

Поезжай на неделю, а хлеба бери на *две*.

Положи *две* денежки на шапочку, да дялюшке челом, а дядя сам знает о чем.

При старости *две* радости: и с горбом и с бельмом (или: гроб и кила).

Пришли Евдокеи — мужику затеи. Во что Евдокеи, в то и третий спас (не к 4—му ли августу эти *две* поговорки относятся?).

Про глухого (про глухого поп, про глухого попа) *две* обедни не служат.

Против сердца *две* иглы накрест сохраняют от порчи.

Разорвись на двое, скажут: *две* ноги, *две* руки, почему не на четверо?

Рожь *две* недели зеленится, *две* недели колосится, *две* недели отцветает, *две* недели наливают, *две* недели подсыхает.

С Ильина дня работнику *две* угоды: ночь длинна да вода холодна.

С ободранного шкуру дерет. С одного вола *две* шкуры дерет.

С одного вола *две* шкуры не дерут.

С одного волка двух шкур не дерут. С одного вола не *две* шкуры.

С одного тягла по *две* дани не берут.

Сам в корню, *две* ляжки в пристяжке.

Семь топоров вместе лежат, а *две* прялки врознь.

Сидят три кошки, против каждой кошки *две* кошки, много ль всех? (Три.)

Сладок мед, да не по *две* (ложки) в рот.

Сладок мед, да не по *две* ложки в рот.

У кого *две* кожи на ногах? (Кто в сапогах.)

У мордвы *две* морды, а шкура одна (т. е. два языка).

У Николы *две* школы: азбуки учат да кануны твердят.

Убогий во многом нуждается, а скупой во всем. Убогого одна нужда гнетет, скупого *две* (убожество и скупость).

Умеешь ли ткать и прясть? — У нас матушка ткала и пряла, да не по *две* рубахи нашивала; а в городе ни орут, ни пашут, да калачи едят.

Футка да фатка, футуши, футушак да *две* футушцы (шанка, шуба, зипун, кушак, рукавицы).

Цена зайцу *две* деньги, а бежать — сто рублей.

Четыре четыреки, *две* растопырки, один вертун да два яхонта (кошка).

Четыре четыреки, *две* растопырки, седьмой вертун (корова).

Четыре четыреки, *две* растопырки, седьмой вертун (собака).

В чистом поле *две* трубы трубили, два соболя играли (лицо, рот, нос, глаза).

Что за важность, что вошь в пироге; хорошая стряпуха и *две* запечет.

Шапочка в *две* денежки — и та набекрень.

Шесть ног, *две* головы и один хвост (вершиник).

Шли *две* матери с дочерьми да бабушка со внучкой, нашли полтора пирога, помногу ль достанется? (По половинке.)

Шли сорок мышей, несли сорок грошей, *две* мыши поплоче несли по два гроша.

Я его приму в *две* щетки. Я из тебя пыль (или: блох) повыколочу.

Яким — простота: *две* рукавицы за поясом, а третьей ищет.

1.3 ТРИ

個数詞3は次のように変化する。順に主格、生格、与格、造格、前置格である。

три, трех, трем, (主または生), тремя, трех

この変化形のすべてについて該当するものを検索し抽出したものを以下に示す。個数詞1, 2と同様、語尾が同一のものはまとめることにする。個数詞3はやはり物事の始めの部分を表す数字であり、身近な数であるため用例もかなり多く216項目が抽出された。比率では資料全体の0.62%を占める。

(1) три

Алеша *три* гроша, шейка копейка, алтын голова, по *три* денежки нога: вот ему и вся цена.

Баба и на базар *три* года серчала, а базар того и не примечал: собирался да

Бабушка Варвара на мир *три* года серчала; с тем и умерла, что мир не узнал.

Без четверти с осьмухою *три* осьмины (т. е. ничего).

Благодаря Христа, борода не пуста; хоть *три* волоска, да растопорцившись.

Бог любит троицу. Святой счет, что троица. *Три* перста крест кладут.

Буй да Кадуй черт *три* года искал, а Буй да Кадуй у ворот стоял. (Татары искали Буй, чтобы разорить его, но не нашли к нему дороги).

Было *три* жены, да все не ос *три* жены (т. е. волос долог, а ум короток).

В августе мужику *три* заботы: и косить, и пахать, и сеять.

В Вильне семь дорог для жида да *три* для поляка.

В Городце (Балах. у.) на горе по *три* девки во дворе.

В нашей волости *три* болести: рекрутство, подати да земщина.

В печурке *три* чурки, *три* гуся, *три* утки, *три* тетерева (времена года).

В печурке *три* чурки, *три* гуся, *три* утки, *три* яблочка (ружейный заряд).

В поле тебе лебеды, да в дом *три* беды.

В *три* погибели согнулся (согнуло).

В чужих людях (На чужой стороне) в *три* года чертом прослывешь (?).

Васька—васенок, худой поросенок, ножки трясутся, кишки волокутся — почем кишки? — По

три денежки.

Взят от земли, яко же Адам; ввержен в печь огненную, яко *три* отроки; взят от печи и возложен на колесницу, яко Илия; везен бысть на торжище, яко же Иосиф; ставлен на лобное место и биен по главе, яко же Иисус; возопи велиим гласом, и на глас его прииде некая жена, яко же Мария Магдалина, и, купивши его за медницу, принесе домой; но расплакася по своей матери, умре, и доныне его кости лежат не погребены (горшок).

Взят от земли, яко же Адам; посажен на колесницу, яко Илия пророк; ввержен в печь огненную, яко *три* отрока; брошен в Чермное море, яко же и фараон; кости и составы мои рассыпались; взяв меня, некая жена одела в пестрые ризы, и нача второй век жити (горшок).

Взят от земли, яко же Адам; посажен на колесницу, яко Илия; ввержен в печь, яко *три* отроки; возжалився некая рабыня, облекосе его в пестрые ризы и застави его второй век жити.

Во поле Епифанском, под деревом царским, *три* орла орлуют, одним яйцом даруют (крестины).

Воевода год помечает, а два отвечает. Год пометы, а *три* ответа (от старин. срока).

вой, пирожок испечет, и корова не ест; да поставит (растворит) *три*, посадит (в печь) два, а вынет один.

Во—первых, я вина не пью; во—вторых, уж я сегодня *три* рюмочки выпил.

Всесвятская каша, по *три* деньги аршин.

Всякая небылица в *три* года пригодится.

Всякая тряпица (или: небылица) в *три* года пригодится.

Выпили овечьего квасу на *три* деньги, а шуму на пол—осьмухи (вина).

Где две бабы, там суём (сейм, сходка), а где *три*, там содом.

Где две бабы, там суём (сейм? или от со—иматься, схватиться, схватка?); где *три*, там содом.

Где на о ко, где на батман (о ко *три* фунта, батман — десять).

Где я лисой пройду, там *три* года куры не несутся.

Гляди в оба! Слушай в оба, зри в *три* !

Гляди в оба, зри в *три* (а придет пора, наглядишься и в полтора).

Говорит *три* дни, а все про злыдни.

Год поживет — рог наживет, два поживет — два наживет; а *три* поживет — хозяина сбодет (о прислуге).

Год поживет, рог наживет; два проживет, два наживет; а *три* проживет — и хозяина сбодет (работник).

Год торгуй, два воруй, а *три* в яме сиди.

Город Балахна стоит, полы распахня (Балахна растянулась по Волге версты на *три*).

Грош да *три* деньги отложь.

Дали похлебку в *три* о хлебка.

Две тысячи веников, пятьсот голиков, по *три* денежки сотня — много ли рублей?

Двор кольцом, *три* жердины конец с концом; *три* кола забито, *три* хворостины завито, небом накрыто; светом обгорожено.

Дерево елево, в *три* года ягода, на четвертый в голову кок (можжевел и водка с него).

До солнца пройти *три* покоса, ходить будешь не босо (т. е. в сапогах).

До трех раз прощай! *Три* раза прости, в четвертый похворости!

Добрый именинник до трех дней (или: *три* дня).

Дорогой камешек в *три* деньги, цепочка в алтын — старому на ворот да спущу его на воду.

Его в *три* охвата не обнимешь.

Едет дядя из Новгорода, везет детей *три* за города.

Един бог; два тавля Моисеевых; *три* патриарха на земле; четыре листа евангельска; пять ран господь претерпел; шесть крыл херувимских; семь чинов ангельских; восемь кругов солнечных; девять в году радостей; десять божьих заповедей; единдесять праотец; два на десять апостолов.

Если месяц в *три* дня обглядится, то весь будет вёдреный, а когда *три* дня дождя, то весь ненастный (ворон.).

Если первые *три* месяца беременности легки — родится мальчик, тяжелы — девочка.

Есть у меня *три* отрасли: первая отрасль — телу отчист; вторая отрасль — больным исцеленье; третья отрасль — языку молчанье (береза: банный веник, береста для повивки горшков, деготь для смазки колес).

За *три* вещи не ручайся: за часы, за лошадь да за жену.

Заведутся злыдни на *три* дни, а не выживешь до веку.

Завтра в поход: *три* версты без привалу да на своих харчах; готовься, суши сухари.

Знать по очам, какова печаль. Слеза в *три* ручья.

И курица пьет. Курица и вся *три* денежки, да и та пьет.

Казенная смета вся в *три* кирпича (о сметной толщине стен).

Когда меня мать рожала, как *три* года дрожала (похвальба).

Конь, нога бела — десять рублей, две ноги белы — двадцать рублей, *три* ноги белы — тридцать рублей, а четыре ноги белы — четыре рубля.

Костромичи: лучше бы *три* раза погорела, чем раз овдовела.

Кто в Коле *три* года проживет, того на Москве не обманут.
Кто думает *три* дни, тот выберет злыдни.
Кто обмирал и был на том свете, тому, под большим страхом, запрещено говорить *три* слова (неизвестно какие).
Кунавина слобода в *три* дуги меня свела (пристанище разврата на Нижегородской ярмарке).
Ласточки отлетают в *три* раза, в *три* спаса.
Летели *три* ворона, кричали в *три* голоса; один кричит: “Я Петр”; другой кричит: “Я Филипп”; третий кричит: “Я сам велик” (*три* поста).
Летели *три* пичужки через *три* избушки; одна говорит: “Мне летом хорошо!” Другая говорит: “Мне зимой хорошо!” А третья говорит: “Мне что зимой, что летом — все равно!” (Телега, сани, дуга).
Летело стадо птиц на рощу; если по две на дерево — одно дерево осталось; сели по одной — одного не достало. Много ль птиц и дерев? (*Три* дерева и четыре птицы.)
Летят *три* пичужки, через *три* пусты избушки.
Либо *три* пей, либо трижды *три*.
Ложка—то узка, таскает по *три* куска; надо ее развести, чтоб таскала по шести.
Лямку *три*, налегай да при! Кобылку в хомут, а бурлака в лямку.
Матка, на детей крадучи, прорвала пазуху, а детки, у матери крадучи, прорвали *три*.
Меняючи только жид разживается (да и то на *три* дня).
Мужик купил *три* козы, заплатил за них двенадцать рублей, по чему каждая коза пришла? (По земле).
На всякой неделе по *три* пятницы.
На него лапти черт по *три* года плел (не мог угодить).
На печи в решете *три* засушенки.
На рубль долгу, *три* полтины росту.
На св. Петра дождь — урожай нехудой, два дождя — хороший; *три* — богатый.
На свете *три* кривобоины (дорога, река, изгорода).
На Семен день ужи выходят на берег, ходят по лугам на *три* версты.
Наговорил с *три* короба. Лепеталось бы, да не дремалось.
Нашего Мины не проймешь и в *три* дубины.
Не страшны злыдни в *три* дни, страшны в *три* года (впереди).
Не трожь, не ворошь, по *три* деньги за грош.
Не угадывай в *три* дня, угадывай в *три* года!
Не узнавай друга в *три* дня, узнай в *три* года.

Не хвались в год, хвались в *три* года (а хвались в рот).
Нет моей моченьки: прождала *три* ноченьки.
Обещанного *три* года ждут.
Один Иван — должно; два Иван — можно; *три* Иван — никак не возможно (сказал немец про Ивана Ивановича Иванова).
Один сын — не сын, два сына — не сын, *три* сына — сын.
Один сын — не сын, два сына — полсына, *три* сына — сын.
Один ум — пол-ума; *три* ума — полтора ума; два ума — ум.
Один, другой — обчелся. Раз, два, *три* — обчелся.
Озимь сей за *три* дня до успения и *три* дня после успения (южн.).
Около кола *три* хвоя вьются.
Около ямы *три* хвоя вялы; на хвой стану, хвой достану.
От бессудного рубля по *три* деньги неволи (стар.).
От Волока до Утки шел трои сутки (*три* версты).
От оспы: *три* горошины перебирать счетом *три* жды по девяти раз, считая — ни раз, ни два, ни *три* ...
От царя, царя, от Реза шли *три* брата: ножами резались, топорами рубились, кровь не шла, ничего не деялось (заговор от поруба).
Первой, другой, согнул дугой; *три*, четыре — прискочили; пять, шесть — бьют шерсть; семь, восемь — сено косим; девять, десять — девок весить; одиннадцать, двенадцать — некуда деваться (конаются).
Первый спас час припас; Петри Павел два прибавил, а Илья пророк *три* приволок.
Пиво добро — по *три* деньги ведро: пьют похваляют.
Пишет в *три* пера (Рубит в *три* топора), а денежка не спора.
Пляши в *три* ноги (в *три* жилки, во все жилки).
По *три* выти зараз схлестывает.
По *три* раз в сутки (чарку), без всякой смутки.
Под гору без хомута, а в гору в *три* кнута. Под гору вскачь, а в гору хоть плачь.
Пожилось Ермаку — по *три* чирья на боку.
Поле в *три* переклика, а он гонца шлет.
Постель покойника на *три* дня выносят в курятник на опевание петухам (чтоб петухи опели).
Пошел я на лыко гору драть; увидел, на утках озеро плавает. Я сробил *три* палки: одну еловую, другую березовую, третью рябиновую; бросил еловую — не добросил, бросил березовую — перебросил; бросил рябиновую — угодил; озеро вспорхнуло, полетело, а утки

остались.

Прекратить икоту — надобно *три* раза “Богородицу” прочитать.

Приехала баба из города, привезла вестей *три* короба.

Пришли злыдни погостить *три* дни, а выжили целый век.

Продали с хохла пояс за *три* деньги, а хохол нипочем в придачу пошел.

Пропади мой злодей, меня не избыв, а избывши меня — хоть *три* века живи. Пропади мой лихой, не изведши меня, а изведши меня и пр.

Пропади, мой лихой, не изведчи меня; а изведчи меня, хоть *три* века живи!

Прошла кума в *три* села — не ночевать голубушке дома.

Псковичи — небо кольями подпирали (*три* дня сходка стояла, думая, что делать? Туча нависла; решили подпереть кольями).

Пуд муки по *три* рубли; во что обойдется пятачная булка?

Пытают тятя по *три* перемены (стар.).

Раз, два — упала гора; *три*, четыре — прицепило; пять, шесть — бьют шерсть; семь, восемь — сено косим; девять, десять — деньги весить (конаются в игре).

Раз, два, *три* (т. е. живо, скоро, проворно).

С горы без хомута, а в гору в *три* кнута.

С Иванова дня ставят в кринках молоко под *три* росы — больше молока коровы дадут.

Св. Касьяну *три* четверга празднуют: на седмицкой, на масленой и на святой (курск.).

Семь без четырех да *три* улетело.

Семь крутых утренников: *три* до Власья, один на *три* после Власья.

Семьдесят семь полков: все повалились, а *три* остались (сосна, ель и вереск зимой).

Сиди на печи да гложи (да *три*) кирпичи.

Сидит, надувается, *три* дня в лапти обувается.

Сидят *три* кошки, против каждой кошки две кошки, много ль всех? (*Три.*)

Служил *три* лета, выслужил *три* репы, а красной ни одной.

Согнуть кого в бараний рог (или: в *три* дуги, в *три* погибели).

Согнуть кого в дугу (или: в *три* дуги; в *три* погибели).

Согнуться в *три* погибели, в крюк, в дугу.

Солдату *три* деньги в день: куда хочешь, туда их и день!

Спасается — по *три* раза в день напивается.

Старуха *три* года на мир сердилась, а мир того и не знал.

Такая красава, что в окно глянет — конь прянет; на двор выйдет — *три* дня собаки лают.

Торгу на *три* алтына, а долгу на пять.

Три (Четыре) у повода — тот же день.

Три бабы — базар, а семь — ярмарка.

Три года — не *три* века. *Три* дня — не *три* года.

Три года — яйцо, тридцать лет — медведь, шестьдесят лет — курица (младенец, середовой и старик).

Три года не баил парнишко, да: “дура мать”.

Три деньги в день — куда хочешь, туда день.

Три дня молот, а в полтора съел.

Три дня не евши, да в зубах ковыряет.

Три друга: отец, да мать, да верная жена.

Три жены имел, а ото всех беды терпел.

Три кола вбито да небом покрыто.

Три коровушки есть, отелятся — будет шесть.

Три ноги, два уха да шестое брюхо (лохань).

Три попа, а заросла в церковь тропа.

Три свечи на столе — к покойнику.

Три степени пьянства: с воздержанием, когда крадешься по стенке; с расстановкой, когда двое ведут, третий ноги переставляет; с расположением, когда лежишь враспяжку.

Три табак, а сбыту нет — сам нюхай!

Три тулова, *три* головы, восемь ног, железный хвост, кованый нос (соха с бороной).

У доброй лисы по *три* отнорка.

У нашего Макара (у Макарья, на ярмарке?) по *три* деньги Натальи; а грош дай — любую выбирай.

У нашего Макарья по *три* деньги Натальи, а грош дай, любую выбирай.

У Ноя *три* сына: Сим, Хам и Афет — кто им был отец? (Василий кузнец.)

У Тараса на плечи разыгрались *три* вши.

Упросились злыдни на *три* дня, да черт их выкурит в *три* года.

Февраль — широкие дороги. Бокогрей. Февраль воду подпустит, март подберет. Февраль *три* часа дня прибавит.

Ходил *три* дни, принес (выходил) злыдни.

Ходил *три* дни, принес злыдни.

Ходит, будто *три* дня не евши.

Хоть *три* дни не есть, а с печи не лезть.

Цыганский дом: *три* кола да посередине головня.

Чванства на сто рублей, а животов на **три** полушки.

Что такое? — **Три** покоя, а жить негде.

Шейка — копейка, алтын — голова, по **три** деньги нога, а душка — полушка.

Шел мужик, а ему навстречу **три** мужика: солнце, ветер и мороз. Мужик поклонился ветру. Солнце сказало: “Я тебя сожгу”. А ветер: “Я тебя не допущу”. Мороз молвил: “Я тебя заморожу”. А ветер: “Я тебя отдую” (Рязань).

Шли **три** попа, **три** Прокопья попа, **три** Прокопьевича, говорили про попа, про Прокопья попа, про Прокопьевича.

Щупают татя в **три** перемены.

Эка шаль: по **три** деньги шваль (т. е. дрянь дешева).

Этот грех — и всего — то **три** пятницы молока не хлебать.

(2) трех

В **трех** братьях дураки — Иванушки, а одиночные — Емели да Афони.

Где любя, там не дают; где не любя, там двух да **трех**.

Для оката ребят водой, от крику, кладут в воды печины (золы) из **трех** печей: избной, горничной и банной (Чердынь).

До **трех** дней, до первого спаса, и после крещенья, белья не прут.

До **трех** раз прощай! Три раза прости, в четвертый похворости!

Добрый именинник до **трех** дней (или: три дня).

Душа моя масленица (говорит семик), перепелиные твои косточки, бумажное твое тело, сахарные уста, сладкая речь, красная краса, руса коса, тридцати братьев сестра, сорока бабушек внучка, **трех** матерей дочка, ясочка, ты же моя перепелочка.

За Яузой на Арбате, на Воронцовском поле, близ Вшивой горки, на Петровке, не доходя Мещанской, в Кожевниках, прошедши Котельников, в Кисловке под Девичьим, в Гончарах, на **Трех** горах, в самых Пушкирях, на Лубянке, на самой Полянке и пр. и пр. (т. е. нигде; шутка над Москвою).

Земля на **трех** китах (рыбах) стоит.

Зима без **трех** подзимков не живет.

Кто бабе (свахе) поверит, **трех** дней не проживет.

Кто цыгана (жида) обманет (проведет), **трех** дней не проживет.

На **трех** свиной корму не разделит.

Невеста родится, а жених на конь садится (на коня сажали **трех** — семи лет).

Он **трех** не перечтет. На руке пальцев не сочтет.

Понюхаем табаку носового, вспомняем Макара плясового, *трех* Матрен да Луку с Петром. Пошехонцы — слепороды: в *трех* соснах заплутались. За семь верст комара искали, а комар на носу. На сосну лазили, Москву смотрели. Я слушаю: кто свищет? ан это у меня в носу. Ноги под столом перепутали. С краю не ложатся, а все в середину (о пошехонцах Яросл. и галичанах Костр. рассказывают много в этом роде, о чем издана целая книжка, впрочем, подражание немецкой, о швабах).

Пятое колесо в телеге. На *трех* ногах пуще хромать станешь.

Русский крепок на *трех* сваях: авось, небось да как — нибудь.

Свечу от *трех* заутрень (на пятн., на субб., на воскр.) зажигают при родах.

Трех ворогов не держи себе, а с двумя помирись!

Троица троицей, а *трех* свечей на стол не ставят.

У всех святых на Кулижках, что в Кожухове за Пречистенскими вороты, в Тверской ямской слободе, не доходя Таганки, на Ваганке, в Малых Лужниках, что в Гончарах, на Воргунихе, у Николы в Толмачах, на *Трех* горах и пр. (т. е. нигде).

У кого дети не стоят (умирают), надо просаживать их до *трех* раз в хомут.

Утром на четырех ногах, в полдень на двух, под вечер на *трех* (человек).

Чай проклят на *трех* соборах, а кофе на семи (раск.).

Чур мою сказку не перебивать; а кто ее перебьет, тот *трех* дней не проживет (тому змея в горло заползет).

(3) трем

По всем по *трем*, коренной не тронь, а кроме коренной нет ни одной.

(4) тремя

Сиди, девица, за *тремя* порогами. Орехи — девичьи потехи.

参考文献

- [1] 加藤良作著「数詞って何だろう」ダイヤモンド社, 1996
- [2] L. J. Calvet 著, 矢島文夫監訳「文字の世界史」河出書房新社, 1998
- [3] Математическая Энциклопедия, Изд. «Советская энциклопедия», Москва, 1985
- [4] J. H. Conway, R. K. Guy 著, 根上生也訳「数の本」シュプリンガー東京, 2001
- [5] А.Зиновьев, Тайнопись кириллицы, Изд.. «ПОКРОВА», Владимир, 1998
- [6] 栗原成都著「スラブのことわざ」ナウカ株式会社, 1989
- [7] В. П. Жуков, Словарь русских пословиц и поговорок, «Русский язык», Москва, 1993
- [8] Энциклопедия для детей том11 «Математика», Москва, Аванта+, 2000
- [9] Г. Н. Аверьянова, Число: Цифры и Слова, Изд.СПбГУ, 1999
- [10] В. И. Даль, Пословицы русского народа, тт.1, 2, «Художественная литература», Москва, 1984
- [11] 時田昌瑞著「岩波ことわざ辞典」岩波書店, 2000
- [12] 小学館辞典編集部編「例解学習ことわざ辞典」第二版, 小学館, 2003
- [13] 三省堂編集所編「故事・ことわざ・慣用句辞典」株式会社三省堂, 2002
- [14] 戸谷高明監修「故事ことわざ活用辞典」創拓社出版, 2002
- [15] 岩波文庫編集部「ことばの饗宴」岩波書店 1986
- [16] Собрание сочинений В. И. Даля, (P) 2000-2001, IDDK,